

平成22年度

夢づくり協働プログラム



平成22年4月
岡山県備中県民局

目次

1 平成22年度の取組

1	基本的な考え方	1
2	重点テーマ	2
3	具体的な進め方	3
	(1) 協働の手法	3
	(2) 推進体制の整備	4
	(3) 協働推進フロー図	6
4	主な協働事業	7
	(1) 子育て支援の推進	7
	(2) 未来に引き継ぐ環境の創造	9
	(3) 安全・安心の備中	12
	(4) 地域づくり・観光振興	13
	(5) 備中の「ふるさと」再生	14
	(6) 食料自給率向上対策	15

2 平成21年度の取組状況

1	協働推進会議の開催	17
2	協働ミーティングの実施状況	18
3	夢づくり協働推進事業の実施状況	21
4	職員研修の実施	77
5	夢づくり推進表彰の実施	78

1 平成22年度の取組

1 基本的な考え方

岡山県では、「自立と協働」を基調とした「新おかやま夢づくりプラン」に基づき、「快適生活県おかやま」の実現に向け、「教育と人づくりの岡山」、「安全・安心の岡山」、「産業と交流の岡山」の3つの創造を基本戦略として豊かで活力ある地域づくりに取り組んでいます。

備中県民局の協働の取組が5年を経過する中、協働の手法も次第に定着化し、県民局管内のNPO等の育成も進んできました。

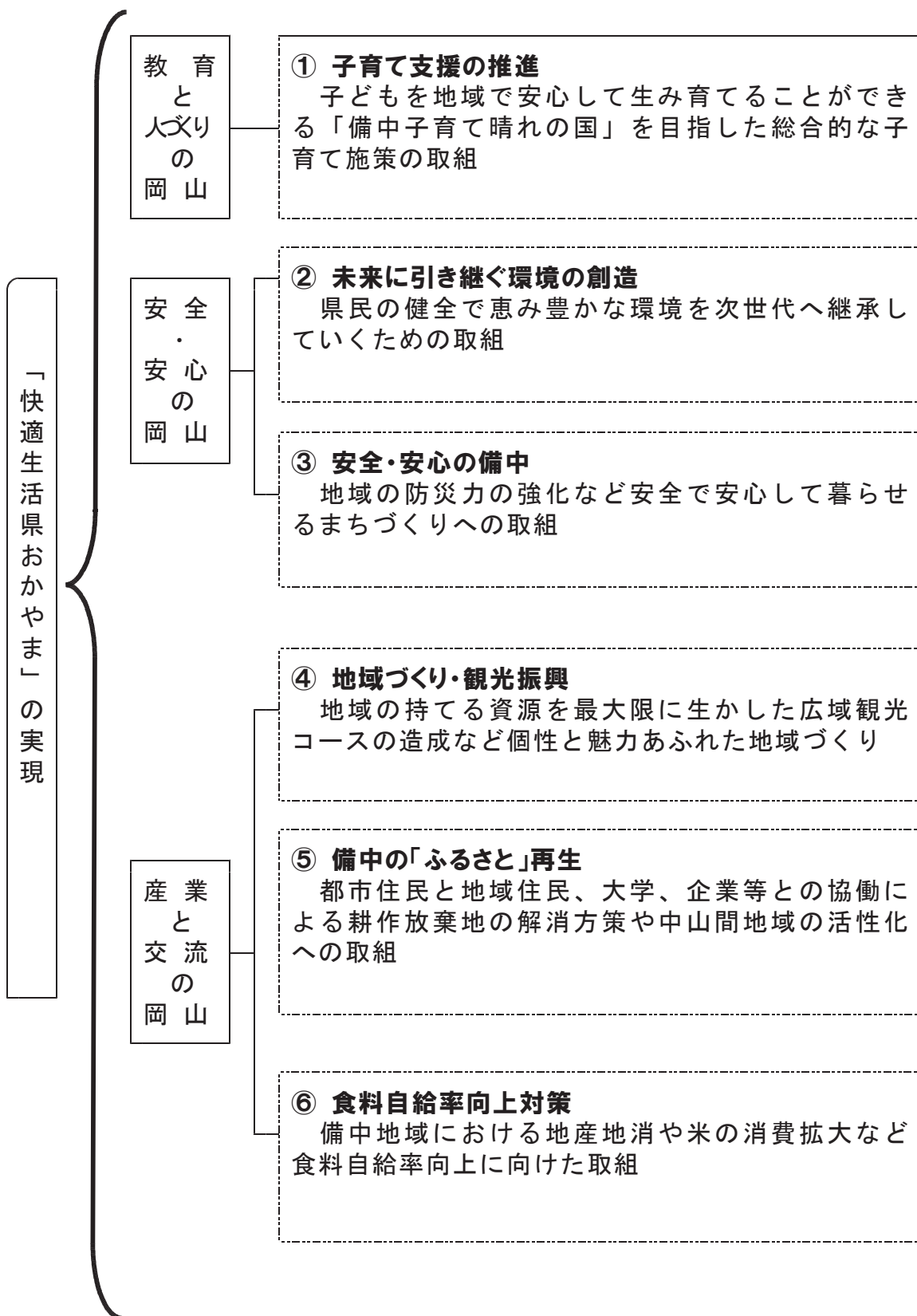
その一方で、協働の取組を始めて3年目をピークに協働事業の件数は減少に転じており、事業内容も継続事業を中心に固定化されつつあり、NPO等外部からの発想やエネルギーを活かす仕組みが求められています。

こうした中、備中県民局では、「新おかやま夢づくりプラン」の3つの基本戦略と備中地域の自然、産業、文化、歴史等やこれまでの取組を踏まえ、今年度は、次に掲げる6つの項目を重点テーマとして位置づけ、「県民局内のあらゆる部所において協働について考え、協働の可能性を探りながら具体的な協働事業を構築する」ことを基本に協働を推進します。併せて、これまでの現状と課題を踏まえ、備中県民局の協働のあり方を客観的、専門的に評価するため、学識経験者やNPO関係者により構成される「岡山県備中県民局協働事業審査委員会」を設置し、協働事業全般に亘り、意見、助言を求める体制を整備します。さらに、各部所が抱える諸課題の解決手段として積極的に「協働」という手法を活用するため、「備中流提案型公募事業」を導入することにより、県民、ボランティア・NPO、各種団体、企業、大学、市町等の多様な主体とともに協働事業を進めます。

< 協働事業実績 >

年度	協働の広場 (協働推進会議)	協働ミーティング	協働事業数
H17	4地域・延べ5回	31テーマ・延べ110回	12
H18	4地域・延べ4回	23テーマ・延べ126回	25
H19	5地域・延べ6回	26テーマ・延べ155回	39
H20	5地域・延べ6回	18テーマ・延べ93回	28

2 重点テーマ



3 具体的な進め方

(1) 協働の手法

①「地域の意見を聞く場」の開催

地域住民のニーズを的確に把握するため、県民局で開催される既存の会議や集会を活用し、多様な主体等の意見を聞く場を設け、地域における課題、意見、提言に基づく協働事業創出の契機の間とします。

②「協働ミーティング」の実施

協働事業の立ち上げの中心となる実務協議の間として、すべての協働の「種」について、各部所で協働事業ごとに随時、関係する多様な主体とワーキンググループを設置し、具体的協働事業化に向けて検討する間とします。

③「備中流提案型公募事業」の導入

備中県民局の協働事業をより一層、活性化させるために各部所が抱える個別の課題や、今後、取り組むべき事項として、次の7つのテーマを設定し、公募します。

併せて、テーマを定めない提案公募も実施することにより、NPO等からの自由な発想やエネルギー、意見等を広く反映させます。

<テーマ>

①男女共同参画社会づくりの推進

備中県民局管内各地域の現状と課題を踏まえた男女共同参画を推進するための効果的な事業の企画・運営

②備中地域の地域・传统文化の発信

平成22年秋に岡山県で開催される第25回国民文化祭の機会を捉え、備中地域の個性ある文化等をクローズアップし、広く情報発信を行うことにより地域の文化振興を図る事業の企画・運営

③地域防災活動の推進

備中県民局管内各地域において地域防災活動の中心となる自主防災組織の立ち上げ及び活性化を図り、地域全体の自主防災力の強化と底上げを進める事業の支援に係る企画・運営

④地球温暖化防止対策の推進

県民が地球温暖化問題について意識改革を図ることができ、身近なところから地域を巻き込んで取り組むことのできるアイデアに富んだ事業の企画・運営

⑤高梁川を守り育てる環境保全活動

高梁川の豊かな自然、良好な環境を次世代に引き継ぐため、上・中・下流の県民、事業者等が一体となり、高梁川の未来を考え、行動する取組や気運の醸成を図る取組の企画・運営

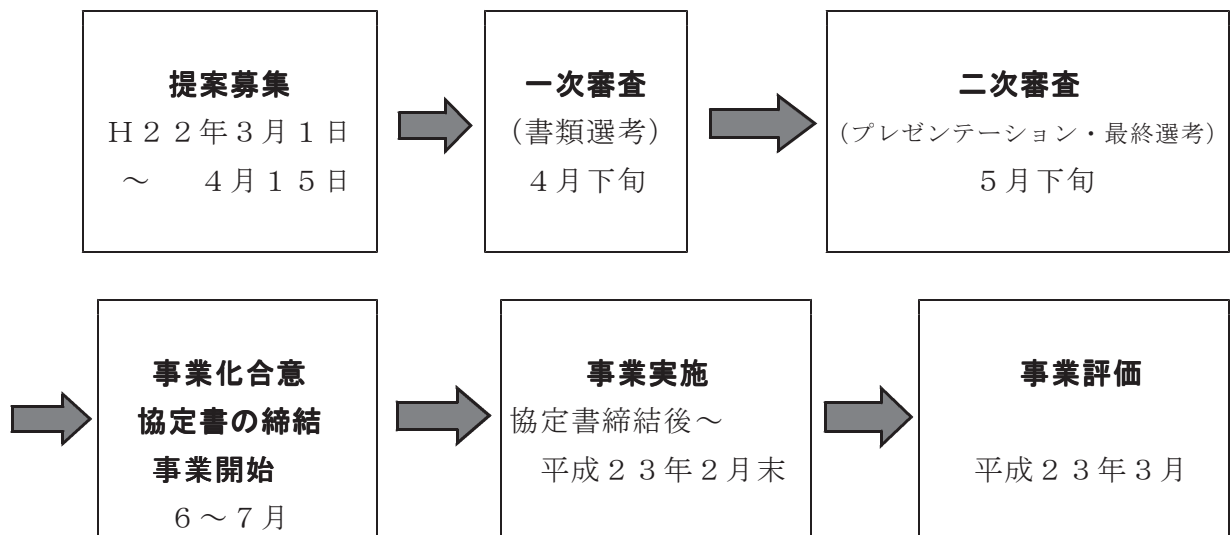
⑥耕作放棄地の解消

地域の農業者、都市住民や企業、NPO、教育機関等、地域内外の人々の支援等を活用した耕作放棄地の解消・地域活性化モデルの立案及び実証

⑦ひきこもり対策の推進

思春期、青年期のひきこもりの方を対象に農作業や事業所での作業体験を通して社会参加のきっかけづくりを目指す職場体験事業の企画・運営

< 提案募集事業の流れ >



(2) 協働推進体制

① 県民局推進体制

ア) 岡山県備中県民局協働事業審査委員会の設置

学識経験者、NPO支援関係者等から構成する「岡山県備中県民局協働事業審査委員会」を設置し、提案募集事業の審査・評価を行うとともに、備中県民局の協働事業全般についての意見、助言、評価を求めます。

<岡山県備中県民局協働事業審査委員会委員>

委員名	所属・職名等
岡崎 順子	岡山県立大学保健福祉学部 教授
小川 孝雄	岡山県ボランティア・NPO活動支援センター 所長
古賀 桃子	ふくおかNPOセンター 理事長
靄 理恵子	吉備国際大学社会学部 准教授
松井 哲也	倉敷市市民活動推進課 課長
松畑 熙一	中国学園大学・中国短期大学 学長

(敬称略・50音順)

イ) 庁内協働推進連絡会議の開催

県民局内の各部所の課室長等で組織する「備中県民局協働推進連絡会議」を設置し、情報の共有、連絡調整を図りながら、県民局の重点テーマ、重点事業、提案公募テーマ等に関する局内議論を充実させる場として活用し、総合的かつ効果的な施策の推進に努めます。

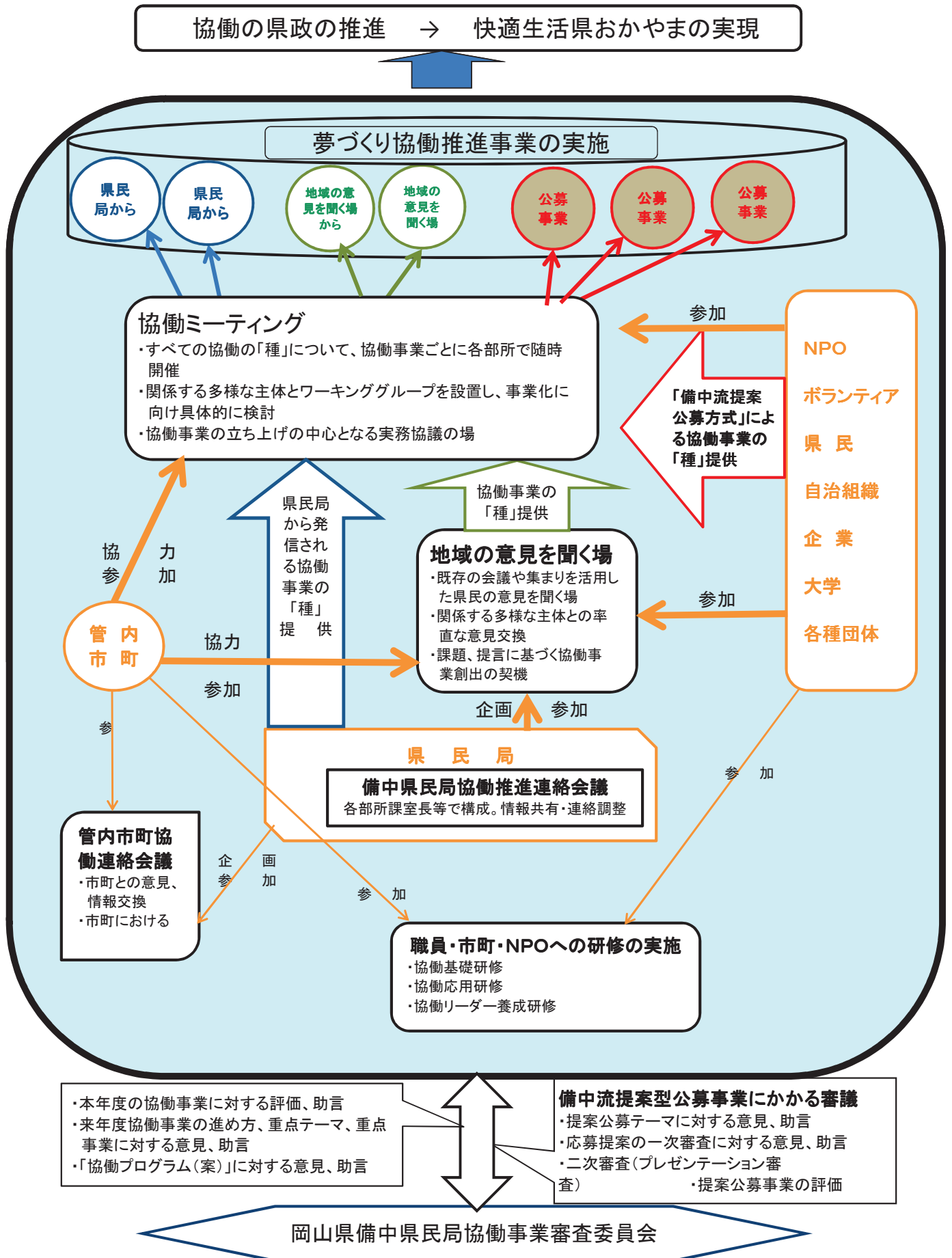
ウ) 行政職員・NPO等への協働研修の実施

地域での協働の担い手となる県民、ボランティア・NPO、各種団体等の多様な主体や行政職員（県職員・市町職員）に対して、協働についての普及啓発を行う協働研修会を実施し、人材の育成、資質の向上等を図ります。

② 管内市町との協働推進体制

協働の取組の成果を管内各地域に広げていくためには、住民に最も身近な基礎自治体である市町との連携が不可欠です。このため、県民局と管内市町の協働推進担当課で構成する「管内市町協働連絡会議」を開催し、意見交換、情報交換等を行い、連携強化と情報の共有を図ります。

(3) 協働推進フロー図



4 主な協働事業

(1) 子育て支援の推進

事業名 備中子育て晴れの国づくり

<概要>

子育て支援に関係する様々な分野の人々が知り合い、支え合い、高め合うことにより、子ども・親・地域が育ち、次代を担う子どもたちを育む循環が生まれる地域社会「備中子育て晴れの国」を目指して、総合的な子育て支援に取り組む。

<実施計画>

1 おかやま子育てカレッジ実現事業

- (1) にいみ子育てカレッジ及び県大そうじゃ子育てカレッジの充実支援
- (2) 大学子育て資源オープン化事業の活用による管内他大学への子育てカレッジの実現

2 備中子育て晴れの国交流会・協働子育て支援学会（研究会）

- (1) 備中子育て晴れの国交流会
 - ①先進視察交流会：取組発表、意見交換会、グループワーク
 - ②全体交流会：地域子育て支援に関する講演、意見交換会、グループワーク
- (2) 協働子育て支援学会（研究会）
 - ①大学研究・地域活動・行政施策の連携強化の取組：大学教員等の研究発表、意見交換会

3 備中・おやじの子育て力向上推進事業

父親に家庭での子育ての意義・重要性について学んでもらい、父親が母親と共同して子育てを行うことで、育児負担感を感じている母親等を支援する取組を行う。

備中子育て晴れの国づくり(H22)

～子育てをテーマに人や情報が行きかい、高めあう備中～

備中子育て晴れの国

管内全体

●備中子育て晴れの国交流会・協働子育て支援学会(研究会)

子育てをテーマに備中全域を産・学・官・民の様々な人や情報が行きかい高めあう関係づくり

さらに、子育て支援に関する研究者と実践者による学会(研究会)を開催することにより、大学研究・地域活動・行政施策の連携強化

参加

参加

地域毎

●おかやま子育てカレッジ 実現事業

大学を核とした協働子育て支援拠点の推進

県職員が地域へ出向き、市町や地域の
人々と一緒に考え、支援する

●備中・おやじの子育て力 向上推進事業

父親に対する子育ての意義・重要性の学び

子育てに負担感を感じている母親等の支援

参加

地域で子育て支援に関わる様々な方々
産・学・官・民

(NPO・ボランティア・子育て中の親・大学・企業・行政・教育等)

(2) 未来に引き継ぐ環境の創造

事業名 協働公募事業による環境保全

<概要>

地球温暖化の防止、循環型社会の形成、自然環境の保全等の環境施策を推進するためには、行政機関のみにとどまらず、地域住民、事業者、NPO等民間団体といった多様な主体が自らの問題として環境問題を捉え、自主的・積極的に目標に向けて取り組み、生活様式や社会経済活動の在り方を徐々に転換していくことが必要である。

このため、各主体と連携を図りながら、「身近な地球温暖化防止対策」や「高梁川を守り育てる環境保全活動」などをテーマとして協働事業に取り組み、自主的かつ特色ある環境保全活動を積極的に推進する。

<実施計画>

1 身近な地球温暖化対策

住民が地球温暖化問題について意識改革を図ることができ、地域を巻き込んで取り組むことのできる、身近で、アイデアに富んだ地球温暖化防止対策事業の企画・運営について提案公募を行い、応募団体と協働して応募事業を実施する。

2 高梁川を守り育てる環境保全活動

上・中・下流域の住民、事業者等が一体となり高梁川の未来を考え、行動する取組やその気運を醸成する取組など、高梁川を守り育てる環境保全活動の企画・運営について提案公募を行い、応募団体と協働して応募事業を実施する。

事業名 ヒイゴ池湿地回復プロジェクト

<概要>

トキソウ、サギソウ、スイランなどの貴重な植物や世界一小さい、ハッチョウトンボなどが観察できるヒイゴ池湿地（総社市）は、岡山自動車道建設工事に伴い、消失する危機にあったが、関係者の努力により保護保全された歴史を有する。

こうした保護保全活動を一層促進するため、総社市の主体的取組のもと、北の吉備路保全協会、地元町内会等と協働し、ヒイゴ池湿地が有する課題の抽出やその解決方策を探り、関連施設の整備を行うとともに、湿地環境について考え、学ぶシンポジウムを開催する。

<実施計画>

1 現状把握及び課題の抽出

再整備から10年余が経過し、ヒイゴ池湿地を巡る環境に様々な変化が見られることから、大学教授など湿地環境に関する専門家に依頼し、専門的・学術的視点からヒイゴ池湿地の現状を把握及び評価し、解決すべき課題の抽出を行う。

2 専門家による課題解決方策レポート作成

抽出された課題を解決し、本来の湿地の姿を取り戻すためには、どのような方策が必要であるか専門家に提言を求め、レポートをまとめる。まとめたレポートは、北の吉備路保全協会や地元町内会など湿地の現地管理に携わる団体に提供し、技術的管理のためのガイドラインとして活用してもらう。

3 関連施設の整備

専門家レポートや現場管理主体の北の吉備路保全協会や地元町内会等の意見を取り入れ、環境学習の場として一層の活用が図られるよう、パンフレット置場、案内板、遊歩道など必要な関連施設の整備を行う。

4 シンポジウムの開催

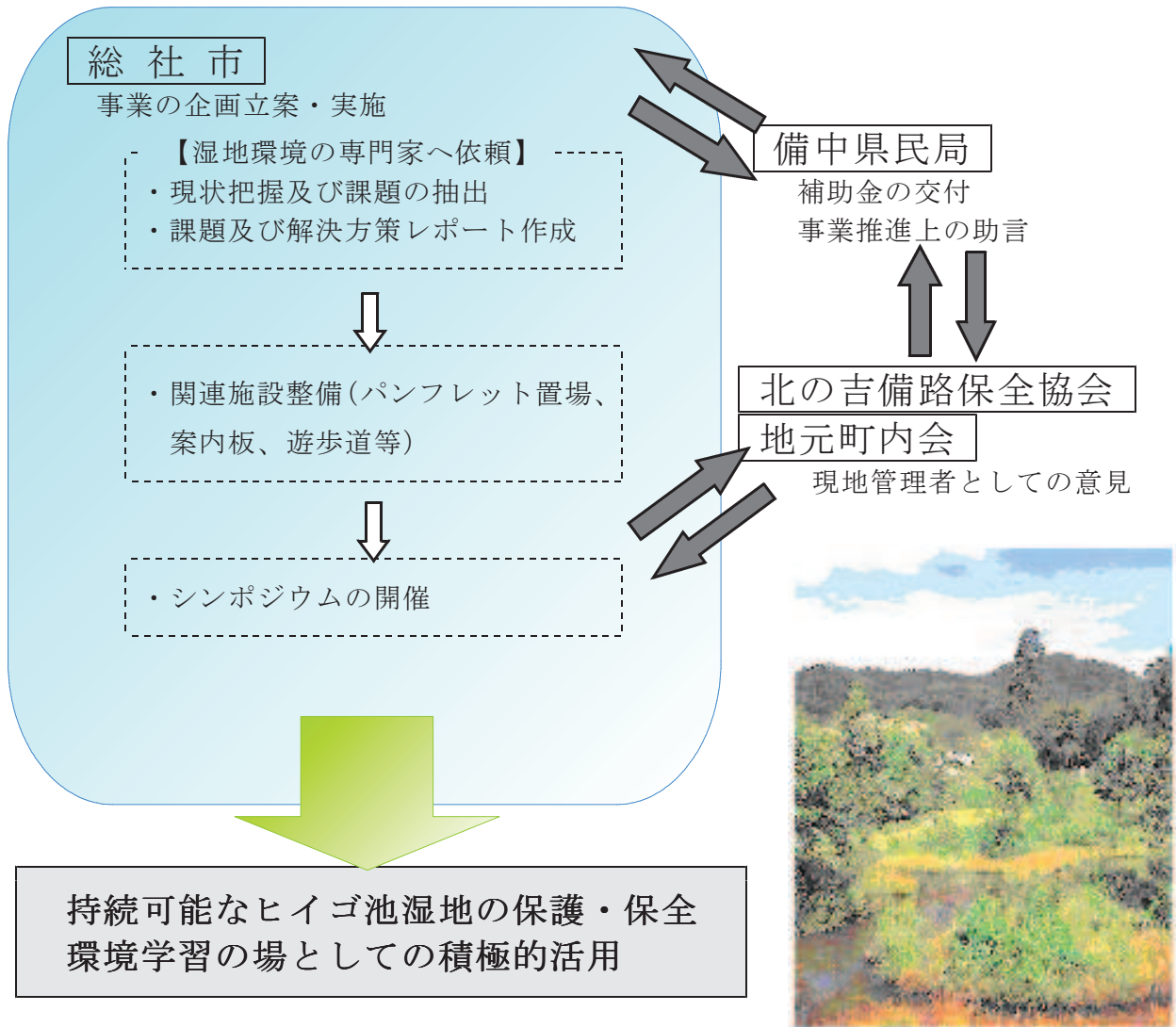
地域に愛される貴重な自然資源として、ヒイゴ池湿地が将来にわたり良好な状態を持続していくための契機となるよう、シンポジウムを開催し、ヒイゴ池湿地の魅力再評価し、湿地の保護保全の取組の盛り上げを図る。

ヒイゴ池湿地回復プロジェクト

1 事業内容

総社市の主体的取組の下、北の吉備路保全協会、地元町内会等と協働して、現在のヒイゴ池湿地が有する課題の抽出やその解決方策を探り、これをもとに関連施設整備を行うとともに、湿地環境について考え学ぶシンポジウムを開催する。

2 事業イメージ



(3) 安全・安心の備中

事業名 備中地域自主防災組織の拡大支援

<概要>

台風や地震などの大規模な災害に対応可能な地域の防災力の強化を図るため、県民局、市町、地域団体、防災NPO等が連携し、中核となる自主防災組織の設置と育成の推進を図る講座等を開催する。また、管内各市町とともに、自主防災組織の立ち上げ及び活性化を図り、地域全体の自主防災力の強化と底上げを推進するための事業の企画・運営について提案公募し、応募団体と協働して事業を実施する。

<実施計画>

1 「みんなで防災」講座の開催

住民の防災意識を育み、自主防災組織率の向上を図るため、管内市町と共催で開催する防災講座や自主防災組織等の研修会に講師として出向き、自主防災組織等の重要性について講演等を行う。

2 防災ミニ講演会等の開催

住民の防災意識を育み、防災活動への参加を促すため、各市町の小学校区、町内会単位などの地区住民を対象とする防災講座を開催する。

3 防災パネル展の開催

防災週間（8月30日～9月5日）、防災とボランティア週間（1月15日～1月21日）に併せて、市町、地域団体、防災NPO、防災士等と協働で防災パネル展を開催する。

4 協働公募事業の実施

自主防災組織の立ち上げ及び活性化を図り、地域全体の自主防災力の強化と底上げを推進するための事業の支援に係る企画・運営について提案公募し、応募団体と協働して事業を実施する。

(4) 地域づくり・観光振興

事業名 備中地域の広域観光コースの造成

<概要>

管内の観光関係団体、商工関係団体、NPO、企業、大学、市町、県民局で組織する「備中地域広域観光振興協議会」を推進主体として、備中地域の歴史、文化、伝統等の様々な地域資源を掘り起こし、広域的に繋いでいくことによって造成した、備中地域固有のストーリー性を持った学習・体験型、交流型の広域観光モデルコース「鉄の径」及び「酒蔵めぐり」について旅行商品化を進める。

<実施計画>

1 広域観光モデルコース「鉄の径」

- (1) 平成21年度に実施した民間旅行事業者によるツアー実績を踏まえ、引き続き民間旅行事業者によるツアーの実現が図られるよう環境を整え、旅行商品化に向けた支援を行う。
- (2) 「鉄の径」の魅力を向上させ、来訪者の満足度を高めるため、「鉄の径」地域ガイド研修会を開催し、鉄を通じた地域の歴史や文化を解説するガイド役として、「鉄」に関連するスポット等で活動するボランティアガイドを育成する
- (3) 「鉄の径」による観光振興を図るため、地域の方々に「鉄」と地域の歴史や文化等との関わりを知ってもらい、地域一体となつての来訪者の受け入れに向けた気運の醸成を図る。
- (4) 県外からの観光客誘致のため、県外エージェント等へ情報提供し、「鉄の径」の情報発信を行う。
- (5) 鉄の道文化圏（島根県安来市、雲南市、奥出雲町）など県内外との連携による新たな展開を検討する。

2 広域観光モデルコース「酒蔵めぐり」

- (1) 平成21年度に実施した民間旅行事業者によるツアー実績を踏まえ、引き続き県酒造組合との連携により、民間旅行事業者が主体となつたツアーの実施が図られるよう環境を整え、旅行商品化に向けた支援を行う。
- (2) 県酒造組合との連携により、「酒蔵めぐり」ツアーの基盤となる各酒蔵の観光客の受入体制の整備・充実を図る。
- (3) 県内外からの観光客誘致のため、「酒蔵めぐり」ツアーや各酒蔵の観光客の受入体制（見せ方、楽しませ方等）の情報発信を行う。

(5) 備中の「ふるさと」再生

事業名 備中流耕作放棄地再生モデル事業

<概要>

都市農山漁村交流や農村景観保全等に関心を持つ都市住民と地域住民、大学等と協働し、耕作放棄地の解消・地域活性化方策を検討するとともに、都市住民との交流により耕作放棄地の解消を図り、中山間地域の活性化につなげる。

<実施計画>

1 グリーン・ツーリズム等による耕作放棄地の解消

耕作放棄地を活用した農業体験等により地域活性化を図ろうとするモデル地区と協働してモニターツアーを実施する。

- ・実施場所 井原市美星町
- ・協働主体 星の郷青空市（株）、井原市（美星支所）

2 都市住民等との協働による耕作放棄地の解消・発生防止

農業や農山漁村の伝統文化、農村景観の保全等、関心を持つ都市住民等や地元住民と協働し、耕作放棄地の解消方策等（再生方策、景観作物の植栽等）を検討し、実践する。

- ・実施場所 新見市神郷高瀬
- ・協働主体 株式会社高瀬振興、新見市（神郷支局）

3 大学や都市住民等との協働による耕作放棄地対策の検討、実証

大学や地元住民と協働し、地域の特性に合った耕作放棄地対策を検討するとともに、実証する。

- ・実施場所 矢掛町小田山ノ上
- ・協働主体 山ノ上干柿生産組合、岡山大学農学部、矢掛町

4 ヤギ放牧等棚田保全普及啓発事業

棚田地域の耕作放棄地解消の取組を推進するため、ヤギ放牧等による棚田保全の取組を地域集落との協働によりモデル的に実施する。

- ・実施場所 高梁市備中町布賀、矢掛町
- ・協働主体 雲海ファームふか、高梁市、矢掛町

5 耕作放棄地解消方策調査で提案された耕作放棄地解消・地域活性化モデルの実証

平成21年度実施の耕作放棄地解消方策調査に基づき、住民や市町、都市住民等と協働して耕作放棄地解消・地域活性化モデルを実証する。

- ・実施場所 総社市高間地区・槁地区、高梁市備中町布賀中・東地区
- ・協働主体 （未定）

6 協働公募事業の実施

地域の農業者、企業、ボランティア・NPO、教育機関等の地域内外の多様な人々の支援を活用した耕作放棄地の解消・地域活性化モデルの立案及び実証について提案公募し、応募団体と協働して事業を実施する。

(6) 食料自給率向上対策

事業名 フードアクション備中プログラム

<概要>

備中地域における食料自給率向上について普及啓発を図るとともに、地産地消や米の消費拡大など食料自給率向上に向けた取組を展開するため、農林水産業や消費者、商工、観光、行政130団体による「備中地域食料自給率向上対策会議（会長 備中県民局長）」を平成21年10月に新たに設立した。これら構成団体と県民が、食料自給率の長期的な低下傾向について学び、生産力の強化による食料の安定供給の確保と食料自給率向上の必要性について理解を深め、各々が主体的に食料自給率向上に取り組む活動を支援する。

また、これまでビビッと備中！農林水産いきいきネットワークが行ってきた、消費者を中心とした地産地消の活動については、レストランや小売店実需者等への需要拡大も視野に入れた取り組みとして重点的に行っていく。とともに、生産者、加工グループ等と商工業者との農商工連携を促進し、販路拡大を推進する。

<実施計画>

1 食料自給率向上啓発備中流アクション

- (1) ホームページ（フードアクション備中）、地域メディア等を活用した啓発ラジオ（RSKいきいき備中ホット情報、FMラジオ（FMくらしき）等）、倉敷駅西ビルのSKY-TV、市町・農協広報誌等を活用し、啓発する。
- (2) 食料自給率向上対策会議活動の促進
食育活動の一環として小中学生や消費者等を対象とした出前講座を開催する。
- (3) 米粉・米粉製品の普及・利用推進
生活交流グループ等において米粉料理講習会を開催し、米粉PRの促進を図る。

2 備中地域食材の産地と街を結ぶアクション

- (1) 直売所の魅力を消費者等とともに考える「新魅力創出セミナー」の開催
消費者等からの意見を聞きながら新しい魅力を主体的に情報発信して行くための方策等を探るセミナー等を開催する。
- (2) レストラン、飲食店向けに食材PRを行う展示会等の開催
備中産農林水産物を広くアピールするため協働推進室等と連携し各種イベントとタイアップしながら食材PRを行う。
- (3) 女性ネットワーク員のアドバイザー制度活用による地域特産品づくりの促進
女性ネットワーク員7名を、開発、地域づくり、食育部門等のアドバイザーとして登録し、各生産者、加工グループ、農協等から申込があった場合、地域特産品づくりアドバイザーとして派遣し地域特産品開発の支援を行う。
- (4) アンテナショップや都市圏でのイベントを利用した効率的なPRの展開
協働推進室と連携し関西圏で開催されるイベント（全国ふるさと観光物産展等）を活用したPRを行う。
- (5) 各地域で特色を生かした地産地消フェアの開催
倉敷・井笠・高梁・新見において各団体が特徴的な地産地消フェアとなるよう取組を支援する。

フードアクション備中プログラム2010

1 食料自給率向上啓発備中流アクション

- ホームページ（フードアクション備中）や地域のメディアを活用した啓発



- 食料自給率向上対策会議活動の促進（出前講座等による普及啓発）



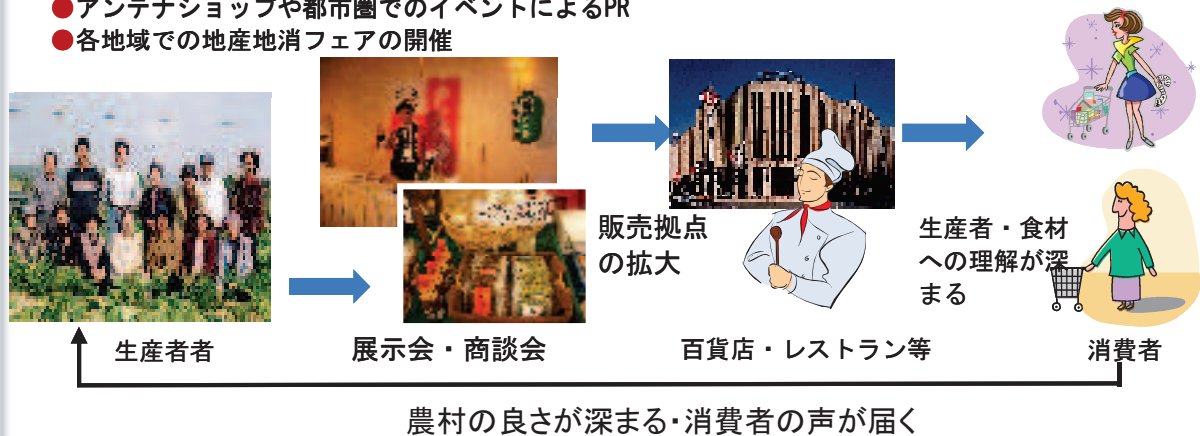
- 各々が主体的に取り組む食料自給率向上活動の支

- 米粉・米粉製品の普及・利用推進



2 備中地域食材の産地と街を結ぶアクション

- 直売所の魅力を考える「新魅力創出セミナー」の開催
- レストラン、飲食店向け食材PRのための展示会
- 女性ネットワーク員のアドバイザー制度活用による地域特産品づくり
- アンテナショップや都市圏でのイベントによるPR
- 各地域での地産地消フェアの開催



事業効果

食料の安定供給・食料自給率の向上の必要性を理解



主体的に取り組む組織への支援

協働の範囲の拡大と内



百貨店・レストラン等での需要拡大

地域経済の持続的成長



商品開発意欲の醸成



食料自給率のアップ

3 平成21年度の取組状況

1 協働推進会議の開催

(1) 備中の「ふるさと」再生

テーマ：都市住民等との交流による耕作放棄地の解消に向けて

日 時	平成21年7月31日（金） 13:00～15:00	
場 所	備中県民局新見地域事務所3階会議室	
参 加 者	仲田 芳人 数原 健功 藤本佐恵子 宝蔵 宏司 中村 泰典 山崎 雅子	かのさと体験観光協会 事務局長 (有)草間自然休養村 代表取締役 千屋トラスト 代表 JA阿新 あしん館 花のみち店 店長 NPO法人倉敷町家トラスト 代表 (有)元気屋 代表取締役

(2) 食育・地産地消の推進

テーマ：女性の視点や職能を結びつけるネットワークづくり「食へのこだわり」

日 時	平成21年9月8日（火） 13:30～15:30	
場 所	備中県民局会議棟第1会議室	
参 加 者	有井 京子 内田 千栄 江草 聡美 加藤せい子 二宮 路子 渡辺 吉子	料理研究家（管理栄養士） 消費者モニター 野菜ソムリエ NPO法人吉備野工房ちみち 理事長 晴れの国ダイニング「プロポスタ」シェフ (有)かっこう花グループ 代表取締役

(3) 子育て支援の推進

テーマ：県大子育てカレッジと地域の子育て支援

日 時	平成22年2月9日（火）	
場 所	岡山県立大学本部棟2階中会議室	
参 加 者	岡崎 順子 中野菜穂子 京林由季子 新山 順子 伊藤 家生 福光 節子 松森 徹	岡山県立大学保健福祉学科 教授 岡山県立大学保健福祉学科 准教授 岡山県立大学保健福祉学科 准教授 岡山県立大学保健福祉学科 講師 ほのぼの子育て ほっとはあと 代表 子育て応援こっこ 代表 総社市保健福祉部 部長

2 協働ミーティングの実施状況

【担当部所】 地域政策部 協働推進室

テ ー マ	男女共同参画団体交流事業	
協働の相手方	管内男女共同参画団体等	
意見聴取状況	第1回： 5月11日 第2回： 7月 6日 第3回： 8月24日 第4回： 10月26日	第5回： 3月16日

テ ー マ	地域づくり団体等交流推進事業	
協働の相手方	地域づくり団体、市町等	
意見聴取状況	第1回： 4月14日 第2回： 5月12日 第3回： 6月 9日 第4回： 7月14日 第5回： 8月11日 第6回： 9月 8日	第7回： 10月13日 第8回： 11月10日 第9回： 12月 8日 第10回： 1月12日 第11回： 2月 8日 第12回： 3月 9日

テ ー マ	青少年南北交流・体験事業	
協働の相手方	かのさと体験観光協会、白石・島づくり委員会、管内市町教育委員会(財)水島地域環境再生財団、矢掛高校、大学等	
意見聴取状況	第1回： 4月30日 第2回： 5月13日 第3回： 7月 6日	

テ ー マ	備中地域の広域観光コースの造成	
協働の相手方	管内の商工会議所・商工会、観光協会、観光関係団体、企業、大学、市町等	
意見聴取状況	第1回： 7月 10日	第2回： 3月18日

【担当部所】 地域政策部環境課

テ ー マ	グリーンイベントガイドラインおかやま	
協働の相手方	備中国地域づくり交流会、グローバルネット吉備岡山県環境保全事業団	
意見聴取状況	策定・公表 第1回： 5月18日 第2回： 6月13日 第3回： 6月24日 第4回： 10月21日	周知 第1回： 1月5日

テ　－　マ	地域で取り組む地球温暖化防止対策
協働の相手方	管内地球温暖化防止活動推進員
意見聴取状況	第1回：8月3日

【担当部所】税務部

テ　－　マ	租税教育推進事業（租税教室開催）
協働の相手方	税務署、市町、小・中学校、税務関係団体
意見聴取状況	第1回：5月13日 第2回：5月18日 第3回：5月21日 第4回：5月25日 第5回：5月26日 第6回：5月27日

【担当部所】健康福祉部

テ　－　マ	県立大学子育てカレッジ実現事業
協働の相手方	岡山県立大学、総社市、子育て応援こっこほのほの子育てほっとはあと
意見聴取状況	第1回：6月2日 第2回：7月7日 第3回：8月3日 第4回：9月8日 第5回：10月30日 第6回：12月10日 第7回：1月8日 第8回：2月9日 第9回：3月2日 第10回：3月17日

テ　－　マ	中山間SUN・山プロジェクト
協働の相手方	NPO法人100万回のサーーたいへん、新見市障害者自立支援協議会、地域住民
意見聴取状況	第1回：7月16日 第2回：7月31日 第3回：10月16日 第4回：11月27日 第5回：1月15日

テ　－　マ	夢づくり新見健やかネット会議
協働の相手方	新見小中学校会、JA阿新女性部、老人クラブ、PTA連合会、保育所研究会、幼稚園教育研究会、栄養改善協議会、愛育委員会ほか
意見聴取状況	第1回：9月9日 第2回：2月23日

【担当部所】建設部

テ　－　マ	安全で心優しい道づくり（県道大佐日野線の整備）
協働の相手方	大佐日野線三部落道路愛護会
意見聴取状況	第1回：9月9日

【担当部所】農林水産事業部

テ　－　マ	女性の視点や職能を生かした農産加工品づくりやマーケティングの推進
協働の相手方	学識経験者、NPO団体代表者、シェフ、消費者モニター、野菜ソムリエ、生産加工グループ、料理研究家
意見聴取状況	第1回： 8月 4日 第2回： 9月 8日 第3回： 11月10日 第4回： 12月 1日 第5回： 12月18日 第6回： 2月12日 第7回： 3月 3日

テ　－　マ	都市との交流による耕作放棄地の解消
協働の相手方	(株)高瀬興産、新見市、星の里青空市(株)、井原市、山ノ上干柿生産組合、矢掛町、岡山大学、総社市高間地区、高梁市備中町布賀中、布賀東地区、都市住民
意見聴取状況	第1回： 10月24日 第2回： 10月25日 第3回： 11月 8日 第4回： 11月14日 第5回： 12月20日

テ　－　マ	浅口地域のもも産地の振興を目指して
協働の相手方	J A岡山西浅口園芸部、J A岡山西、浅口市
意見聴取状況	第1回： 4月20日 第2回： 9月24日 第3回： 11月 5日 第4回： 2月 4日

テ　－　マ	学校給食の地元農産物利用について
協働の相手方	高梁管内学校給食センター、有機で元気たかはし村、びほく農業協同組合、たかはし直ちよくネット、高梁市、高梁地域事務所、備北保健所
意見聴取状況	第1回： 8月10日

テ　－　マ	シルバー人材等の力をピオーネ産地に
協働の相手方	新見市シルバー人材センター登録者、阿新農協ぶどう部会、新見市、阿新農協
意見聴取状況	第1回： 6月 4日 第2回： 6月30日 第3回： 7月15日 第4回： 10月13日 第5回： 2月19日

3 夢づくり協働推進事業の実施状況

部 所 名	番号	事 業 名	頁
地域政策部協働推進室	1	男女共同参画啓発事業	2 2
	2	青少年南北交流・体験事業	2 5
	3	備中国地域づくり交流事業	2 8
	4	備中地域の広域観光コースの造成	3 0
	5	備中地域自主防災組織の拡大支援	3 7
地域政策部環境課	6	環境セミナー「みんなでSTOP温暖化 井原線DE・もっとエコ」	4 0
	7	備中発！まるごと環境体験ツアー	4 2
税務部	8	租税教育推進事業（租税教室開催）	4 4
健康福祉部	9	大学子育て資源オープン化事業	4 5
	10	備中子育て晴れの国交流会・協働子育て支援学会	4 7
	11	中山間SUN・山プロジェクト	4 9
	12	夢づくり新見健やかネット会議・にいみ食育推進隊	5 1
建設部	13	県道 大佐日野線の整備	5 4
農林水産事業部	14	ビビッと備中！農林水産いきいきネットワーク	5 6
	15	備中流耕作放棄地再生モデル事業	6 0
	16	地域の森林づくり協働事業	6 4
	17	木育でストップ・ザ・温暖化	6 8
	18	地域の食文化伝承と地域農産物活用促進事業	7 0
	19	農商工連携による備中高梁ブランド「ピオーネ加工品」開発支援	7 3
	20	トマト栽培を核とした村づくり・地域力の向上	7 6

夢づくり協働推進事業の実施状況 1

事業名

男女共同参画啓発事業

事業の概要

- 1 男女共同参画啓発事業委託
 県民への意識啓発を目的として、知識や実務経験豊富な管内の男女共同参画推進団体等から事業企画を広く募集し、優秀な提案を選定して、団体への委託により事業を実施した。
- 2 人権研修会
 人権週間協賛事業として、人権研修会を市民活動団体と協働で実施した。

協働の主体、役割分担

事業	協働の主体	役割分担
男女共同参画啓発事業委託	総社市ネットワーク“波” (総社市) たかはし With フォーラム (高梁市) 里庄セミナー (里庄町) NPO 法人 子ども劇場笠岡センター (笠岡市)	「男女共同参画啓発事業」の企画、運営
	県民局 (協働推進室)	企画コンペの実施、対象事業選定 市民活動団体への事業委託 事業の広報、参加者募集
人権研修会	にいみフォーラム	管内北部の広報、参加募集 会場の手配、準備 会場の男女共同参画啓発展示 研修会の運営
	県民局 (協働推進室)	管内全域の広報、参加募集 事業に係る経費負担 研修資料等の作成、印刷 研修会の運営補助

実施状況

- 1 男女共同参画啓発事業委託
 - (1) 企画コンペの公募
 備中県民局管内の NPO 法人や市民活動団体等を対象として、幅広い県民を対象とする男女共同参画事業の企画提案コンペを実施した。

- ① 対象団体：備中県民局管内に活動拠点を置く NPO 法人、市民活動団体
(会員 10 人以上、活動実績 2 年以上)
 - ② 実施場所：新見・高梁地区で 1 件・それ以外で 1 件
その他 2 件 (地区による制限なし)
 - ③ 事業費：1 事業 20 万円以内
- (2) プレゼンテーションの実施
7 団体から応募があり、各団体の代表者によるプレゼンテーションを実施し、審査により 4 団体へ委託を決定した。
- ① 実施日：平成 21 年 7 月 16 日 (木)
 - ② 実施場所：備中県民局会議棟

(3) 委託事業の実施

実施日	場所・参加者数	実施内容等
H21.10.10(土)	総社市総合福祉センター 参加者：150 人	男女共同参画フォーラム in そうじゃ 「男女共同参画絵てがみ」優秀作品表彰 「明るい家庭づくり作文」優秀作品発表 講演会：「私の歩んだ道 ～見えないから見ええたもの～」 講師：竹内昌彦氏 (岡山県立盲学校講師)
H21.10.17(土)	高梁市文化交流館中ホール 参加者：52 人	高齢社会と男女共同参画 講演会：「認知症なんてこわくない!? 正しい理解と支え合う心があれば」 講師：妻井令三氏 (NPO 法人ライフサポート理事長) ミニコンサート (CD 鑑賞) 「手紙～愛する我が子たちへ」
H21. 9.15(火)	仁科会館 参加者：20 人	男性料理教室 講師：加藤五郎氏 (両備手打ちそば倶楽部会長)
H21.11.21(土)	里庄総合文化ホールフロイデ 参加者：80 人	講演会：「私の野球人生」 講師：北別府 学氏 (野球解説者)
H21.12.15(火)	仁科会館 参加者：20 人	人権研修会：「DV 被害者支援の中から見える 女性と子どもへの暴力」 講師：貝原己代子氏 (NPO 法人 さんかくナビ代表)
H22. 2. 2(火)	笠岡市保健センター 参加者：200 人	講演会：「変わってしまった女、変わりたくない男」 講師：三浦清一郎氏 (生涯学習・社会システム研究者) ワークショップ (意見交換会)



里庄フォーラムによる
「男性料理教室～そば打ち
体験～」



総社ネットワーク“波”
による講演会
「私の歩んだ道～見えない
から見えたもの～」



NPO 法人子ども劇場笠岡
センターによる講演会
「変わってしまった女・変
わりたくない男」

2 男女共同参画団体交流事業
協働ミーティングの開催

管内男女共同参画推進団体の代表等が、必要に応じて県民局に集まり、情報交換を行った。

3 人権研修会

実施日	場所・参加者数	実施内容等
H21.11.29(日)	まなび広場に いみ小ホール 参加者：87人	人権週間協賛事業 講演会：「コンサート&トーク 優しさの種を あなたの心にとどけます」 講師：小西達也氏 (車イスのシンガーソングライター その他：男女共同参画、DV防止の広報啓発



主催者「にいみフォー
ラム」による開会挨拶



「小西達也さん」講演会



男女共同参画及びDV
防止等の展示コーナー

成果・効果

1 男女共同参画啓発事業委託

- (1) 市民活動団体のこれまでの経験を生かし、費用も低廉で、かつ効果の高い講演会を実施できた。
- (2) 市民活動団体としても、費用面で実施困難な事業を委託事業として実施でき、活動の拡充が図られた。また、提案書の作成、プレゼンテーションの実施、事業報告書の作成等を通じて事務処理能力を向上させ、今後の法人化等への発展も期待できる。

2 人権研修会

- (1) 市民活動団体による柔軟で幅広い発想による企画や地域のニーズに沿った内容の研修が実施できた。
- (2) 県民局から遠方での開催であったが、会場の手配・準備等を現地の市民活動団体で行うなど役割分担を明確にし、作業の効率化や経費の節減ができた。

夢づくり協働推進事業の実施状況 2

事業名

青少年南北交流・体験事業

事業の概要

備中県民局管内は、高梁川流域を中心に南北に大きく広がり、多種多様な自然と地域を有している。この特性を生かして、管内南部、北部の子どもたちが相互に他地域に出向き、普段の生活とは違った農林漁業や生活文化の体験、地域住民や参加者同士の交流を通して、豊かな人間性やたくましく生きる力を育むとともに、希薄化しているといわれる家族間のコミュニケーションを図る一助とする。

協働の主体・役割分担

協働の主体	役割分担内容
かのさと体験観光協会（新見市） 白石・島づくり委員会（笠岡市）	事業の企画立案、事業の実施
管内各市町教育委員会	管内小・中学校へのチラシ配布協力
管内各大学・短期大学	学生ボランティアの派遣
財団法人水島地域環境再生財団	事業協力
県立矢掛高等学校	事業協力
県民局（協働推進室）	事業の企画立案、広報等

実施状況

【夏休み！ワクワク体験inかのさと】

- 開催日 平成21年7月26日（日）
- 開催場所 新見市哲多町
- 参加者 倉敷市、笠岡市、井原市、総社市、浅口市、早島町、里庄町、矢掛町の小学校4～6年生親子 18組42人
- 内容 トマト選果場見学、竹飯・竹の食器づくり、トマトハウス見学、木工クラフト



〔トマト選果場見学〕



〔竹飯・竹の食器づくり〕



〔トマトハウス見学〕



〔木エクラフト〕

【夏休み！ワクワク体験in白石】

- 1 開催日 平成21年8月20日（木）
- 2 開催場所 笠岡市白石島
- 3 参加者 高梁市、新見市の小学校4～6年生親子 15組33人
- 4 内容 底引き網 海底ゴミ学習 ウィンドサーフィン・シーカヤック



〔底引き網〕



〔海底ゴミ学習〕



〔ウィンドサーフィン〕



〔シーカヤック〕

【秋だ！ワクワク体験in白石】

- 1 開催日 平成21年11月1日（日）
- 2 開催場所 笠岡市白石島
- 3 参加者 高梁市、新見市の小学校4～6年生、中学生親子 5組12人
- 4 内容 島内ウォーキング 綿くり・糸紡ぎ・機織り体験



〔島内ウォーキング〕



〔綿くり〕



〔糸紡ぎ〕



〔機織り〕

【秋だ！ワクワク体験inかのさと】

- 1 開催日 平成21年11月29日（日）
- 2 開催場所 新見市神郷高瀬
- 3 参加者 倉敷市、笠岡市、井原市、総社市、浅口市、早島町、里庄町、矢掛町の
小学校3～6年生親子 14組36人
- 4 内容 サツマ任・サト任の収穫 もちつき わら細工体験 クリスマスリースづくり



〔サツマ任・サト任の収穫〕



〔もちつき〕



〔わら細工体験〕



〔クリスマスリースづくり〕

成果・効果

- 1 青少年の豊かな人間性やたくましく生きる力を育むことができた。
- 2 家族間のコミュニケーションの促進を図ることができた。
- 3 行政と民間団体との協働を促進することができた。

夢づくり協働推進事業の実施状況 3

事業名

備中國地域づくり交流事業

事業の概要

平成17年度に設立された管内の地域づくり団体等のネットワーク組織「備中國地域づくり交流会」との協働により、地域づくり、まちづくり等に携わる団体、個人相互の交流・連携を図り、地域全体の活性化を図った。

県民局において、毎月、定例会を開催し、意見交換等を行いながら、グリーンディ・県民文化祭への参加、備中國地域づくり全体交流会の開催等の事業を実施したほか、メーリングリストによる団体間の情報交換を推進した。

協働の主体、役割分担

協働の主体	役割分担
備中國地域づくり交流会 (倉敷市管内16団体、笠岡市管内4団体、井原市管内1団体、総社市管内5団体、高梁市管内2団体、新見市管内1団体 計27団体)	定例会での意見交換、提言 全体交流会の企画・運営 等
県民局 (協働推進室)	場の提供等の側面的支援

実施状況

1 定例会

第1回： 4月14日	第7回： 10月13日
第2回： 5月12日	第8回： 11月10日
第3回： 6月 9日	第9回： 12月 8日
第4回： 7月14日	第10回： 1月12日
第5回： 8月11日	第11回： 2月 8日
第6回： 9月 8日	第12回： 3月 9日

2 グリーンデイ2009講演会の企画・実施

- (1) 開催日：平成21年5月30日(土)
- (2) 開催場所：倉敷物語館
- (3) 講師：NPO法人 樹木・環境ネットワーク協会
理事長 澁澤寿一
- (4) テーマ：バイオリージョナリズムと高梁川



グリーンデイ2009講演会

- 3 第4回備中國地域づくり全体交流会「備中白小豆づくり&山里体験会」
 (1) 開催日：平成21年6月27日(土)、平成21年11月1日(日)
 (2) 開催場所：新見市千屋朝間 他
 (3) 参加者：備中國地域づくり交流会関係者、一般県民 のべ23人



備中白小豆播種のための耕耘作業(6/27)



備中白小豆の収穫作業(11/1)

- 4 グリーンデイ「カーボンオフセット」への取組
 炭焼きを行い、その炭の利用によるCO₂の削減に取り組んだ。

- (1) 開催日：平成21年12月5日(土)
 (2) 開催場所：高梁美しい森



原木を炭焼き窯へ搬入

- 5 第7回おかやま県民文化祭「倉敷ジャム」への参加
 倉敷物語館でのパネル展示、及び、綿の種の配布を行った。

- (1) 開催日：平成21年12月19日(土)、20日(日)
 (2) 開催場所：倉敷美観地区周辺



地域づくり団体の活動内容の展示



配布した綿の種

成果・効果

- 1 地域づくり団体が互いに連携することで、新たな地域活性化の手法等を探ることができた。
- 2 管内の地域づくり、まちづくり等に携わる関係者が互いに情報交換や意見交換を行うことで、相互の交流が一層図られた。
- 3 より広域的な観点から地域の活性化を進める「場」づくりが実践できた。

夢づくり協働推進事業の実施状況 4

事業名

備中地域の広域観光コースの造成

事業の概要

管内の観光関係団体、商工関係団体、NPO、企業、大学、市町、県民局で組織する「備中地域広域観光振興協議会」を推進主体として、備中地域の歴史、文化、伝統等の文化遺産や様々な地域資源を掘り起こし、備中地域固有のストーリー性を持った学習・体験型、交流型の広域観光モデルコース「鉄の径」及び「酒蔵めぐり」を造成し、商品化を進める。

協働の主体、役割分担

協働の主体	役割分担
備中地域広域観光振興協議会	広域観光モデルコース「鉄の径」及び「酒蔵めぐり」の旅行商品化に向けた取組の企画・協力
水辺のユニオン	広域観光モデルコース「鉄の径」及び「酒蔵めぐり」ツアーへの広報支援
管内旅行事業者	広域観光モデルコース「鉄の径」及び「酒蔵めぐり」ツアーの企画・運行
岡山県酒造組合	広域観光モデルコース「酒蔵めぐり」ツアー企画の支援、各酒蔵の観光受入体制整備の支援
管内の蔵元（酒蔵めぐりツアーに関係した酒蔵）	各酒蔵での旅行者受入体制の整備・充実
吉備路ボランティア観光がっど協会、高梁市観光がっど会、吹屋観光協会ボランティアがっど会	広域観光モデルコース「鉄の径」に関連するスポットでのガイド活動
県民局（協働推進室）	広域観光モデルコース「鉄の径」及び「酒蔵めぐり」の旅行商品化に向けた取組の支援・協力

実施状況

1 岡山・備中「鉄の径」ツアーの実施

(1) 「鉄の径」古代編（日帰りコース）

- ・開催日：9月16日（水）、10月7日（水）
- ・コース：吉備津神社・鬼ノ城（温羅伝説の舞台）、総社市埋蔵文化財学習の館（日本最古級製鉄遺跡等の学習）、中世夢が原（刀鍛冶、備中神楽）、星の郷青空市（野菜、特産品の購入）
- ・参加者：22人（男性12人、女性10人）＜県内22人＞

(2) 「鉄の径」中世編（1泊2日コース）

- ・開催日：10月24日（土）～25日（日）
- ・コース：中世夢が原（刀鍛冶）、たたら操業の見学（新見市）、吹屋ふるさと村（ベンガラ）、高梁市郷土資料館（備中鋏、高瀬舟）、高瀬通し（倉敷市、物流の歴史）、倉敷刀剣美術館（古刀、現代刀の見学）
- ・参加者：11人（男性9人、女性2人）＜県内7人、県外4人＞

(3) 「鉄の径」現代編（1泊2日コース）

- ・開催日：11月17日（火）～18日（水）
- ・コース：JFEミネラル芳井鉱山（石灰石採掘場）、新成羽川ダム・発電所（水力発電）、まなび広場にいみ（たたら学習）、ラ・フォーレ吹屋（備中神楽）、吹屋ふるさと村（ベンガラ）、高梁市郷土資料館（備中鋏、高瀬舟）、高瀬通し（倉敷市、物流の歴史）、JFEスチール西日本製鉄所（現代製鉄の学習）
- ・参加者：7人（男性6人、女性1人）＜県内6人、県外1人＞



岡山・備中「鉄の径」ツアー募集チラシ



「鉄の径」 ツアー古代編（日帰り）



「鉄の径」 ツアー中世編（1泊2日）



「鉄の径」 ツアー現代編（1泊2日）

2 広域観光モデルコース「鉄の径」地域ガイド研修会の開催

「鉄」に関連するスポットの魅力を上向きさせ、来訪者の満足度を高めるために不可欠なガイドを発掘・育成するため、地域のボランティアガイドを対象にした研修会を開催した。

- ・開催日：1月27日（水）
- ・場 所：総社市（鬼ノ城）、高梁市（高梁市郷土資料館、高瀬舟）
- ・内 容：ボランティアガイドを対象に、講師が実際に現地（「鉄」に関連するスポット）を案内しながらガイドのポイントを解説する研修会。
講師：吉備国際大学文化財学部教授 臼井洋輔氏
- ・参加者：吉備路ボランティア観光ガイド協会12人、高梁市観光ガイド会・吹屋観光協会ボランティアガイド会6人



3 「鉄の径」地域セミナーの開催

備中地域に存在する鉄のスポットや歴史・文化を地域資源として理解・再認識し、地域一体となった受入体制の構築に向けた機運醸成を図るため、県民一般を対象としたセミナーを開催した。

- ・開催日：2月17日（水）
- ・場 所：高梁国際ホテル
- ・内 容：①ビデオ上映「鉄の径～先人たちの遺産に学ぶ旅」
②講演「鉄から地域の歴史・文化を考える」 吉備国際大学文化財学部教授 臼井洋輔氏
- ・参加者：約70人

4 「鉄の径」観光素材集の作成

県内外の旅行エージェント等へ「鉄」に関連するスポットの情報を提供し、独自の旅行企画・実施を促すため、旅行商品造成に必要な情報、ストーリー等をまとめた素材集を作成した。

5 備中杜氏の郷（酒蔵めぐり）ツアーの実施

(1) Aコース（日帰り）

- ・開催日：1月13日（水）
- ・コース：酒蔵見学（嘉美心酒造、浅口市）、酒蔵見学（三宅酒造、総社市）
- ・参加者：32人（男性14人、女性18人）＜県内32人＞

(2) Bコース（1泊2日）

- ・開催日：1月23日（土）～24日（日）
- ・コース：酒蔵見学（三光正宗、新見市）、キムチづくり体験（新見市）、船川八幡宮、酒蔵見学（熊屋酒造、倉敷市）、旧野崎家住宅・塩業歴史館（倉敷市）
- ・参加者：21人（男性13人、女性8人）＜県内21人＞

(3) Cコース（日帰り）

- ・開催日：2月2日（火）
- ・コース：酒蔵見学（平喜酒造、浅口市）、酒蔵見学（ヨイキゲン、総社市）
- ・参加者：34人（男性16人、女性18人）＜県内34人＞



「備中杜氏の郷」ツアー募集チラシ



備中杜氏の郷ツアーAコース（日帰り）



備中杜氏の郷ツアーBコース（1泊2日）



備中杜氏の郷ツアーCコース（日帰り）

6 「酒蔵めぐり」での受入体制の検討

備中地域一体となった受入体制を構築するため、統一的な衛生管理体制及び料金体系の検討を行うとともに、各酒蔵で見せ方・楽しませ方で検討することにより、酒蔵ごとの魅力向上を図った。

(1) 全体検討会

- ・開催日：平成21年7月30日（木）、平成22年3月上旬
- ・参加者：岡山県酒造組合、受入可能な酒蔵10社
- ・内容：各酒蔵での特徴的な見学・体験内容やイベント、周辺施設との連携等について提案してもらった。

(2) 個別検討

- ・開催日：平成21年8月～12月
- ・内容：各酒蔵からの提案内容について、現地調査及び内容の精査を行い、見学内容等の魅力向上を図るとともに、検討した内容をツアーに反映させ、ノウハウの蓄積を行った。

成果・効果

- 1 「鉄の径」ツアーについて、協議会が提供した「鉄」に関する素材等をもとに、民間旅行事業者がツアーを企画し、独自の採算設定により実施した。
- 2 「鉄の径」の魅力を上向きさせ、来訪者の満足度を高めるためには、鉄を通じた地域の歴史や文化を解説するガイド役が必要であり、「鉄の径」地域ガイド研修会を開催することにより、「鉄」に関連するスポット等で活動するボランティアガイドをガイド役として育成した。
- 3 「鉄の径」による観光振興を図るためには、地域の方々に「鉄」と地域の歴史や文化等との関わりを知ってもらい、地域一体となつての来訪者受け入れに向けた体制整備が重要であることから、一般県民を対象にしたセミナーを開催し、機運醸成を図った。
- 4 旅行商品造成に必要な情報、ストーリー等をまとめた素材集を作成し、県外エージェント等へ情報提供し、積極的な情報発信を行った。
- 5 「備中杜氏の郷（酒蔵めぐり）」ツアーについて、民間旅行事業者が主体となつてツアーを実施することで、旅行商品化に向けた課題等の検証を行った。
- 6 「備中杜氏の郷（酒蔵めぐり）」ツアーの実施により、各酒蔵の見せ方・楽しませ方の創意工夫を誘発し、各酒蔵の観光受入体制の整備につながった。
- 7 協働の主体となる各団体が、役割分担に基づき事業実施することにより、民間主導型の旅行商品化に向けた体制整備の推進を図った。

夢づくり協働推進事業の実施状況 5

事業名

安全・安心の備中 備中地域自主防災組織の拡大支援

事業の概要

台風や地震など大規模な災害に対し、地域の防災力の強化を図るため、県民局、市町、地域団体、防災NPO等と連携し、中核となる自主防災組織の設置と育成の推進を図り、住民の防災意識を育み、防災活動への参加を促した。

協働の主体・役割分担

協働の主体	役割分担内容
倉敷市砂原、倉敷市真備町、笠岡市大島、浅口市益坂及び松井地区の住民	主に自主防災活動の一環として、防災研修会を企画、中には消防部局の防災訓練、炊き出し等との実地訓練との抱き合わせでの開催もあった。
新見市、笠岡市	みんなで防災講座での会場手配、参加者募集
倉敷市災害ボランティアコーディネーター連絡会	「岡山県の防災の取組」などのテーマを決めた防災研修会の会場準備、参加者募集
県民局（地域防災監）	防災講習会講座の企画・講師、パンフレット配布など

実施状況

1 「みんなで防災」講座の開催

地域の防災意識を育み、防災活動への参加を促すため、自主防災組織率の低い市町順に研修会等を開催した。

(1) 新見会場

新見市においては、防災意識の希薄な職員に対し、職員研修会として市町村合併後初の防災研修会を企画し、地域防災計画に基づく自治体職員としての役割などを講座に取り入れ、職員に対し再認識させた。

①日 時：平成22年1月21日（木）

午前の部 10:00～12:00

午後の部 13:30～15:30

②場 所：新見市総合福祉センター3階 大会議室

③参加者：新見市職員 ①、②ともに約100名程度



(2) 笠岡会場

笠岡市においては、地域の自主防災活動活性化に向けた研修会を開催し、消防団や自主防災組織の必要性と活性化に向けた研修会を開催を予定していたが、当日、津波警報発令により、防災体制をとることとなり中止。次年度に開催予定とする。

①日 時：平成22年2月28日（日） 10:00～12:00

②場 所：笠岡市サンライフ笠岡 大会議室

③参加者：市民及び消防団員等 約100名程度

2 防災講習会等

住民の防災意識を育み、自主防災組織率の向上を図るため、管内市町の町内会等の防災組織の単位ごとに開催が企画される防災講座や自主防災組織等の研修会に、地域防災監が講師として出向き、災害事例の紹介、自助、共助、自主防災組織の重要性及びその活動活性化などの必要性を説いた。

- ・主な開催状況：倉敷市砂原地区 約30名
- 浅口市益坂及び松井地区 約60名
- 倉敷市真備町菌地区 約120名 →
- 笠岡市大島地区 約70名
- 倉敷市清音地区 約40名



3 防災・危機管理先進地視察研修の開催

東南海・南海地震及び台風等の自然災害に備え、先進地における防災施設の見学・体験学習通じ、県民局職員、管内市町職員及び消防関係職員の防災・危機管理対策の資質向上及び実践的課題への対応能力の向上を図った。

①日時：平成22年2月22日

②視察先：兵庫県立三木総合防災公園（兵庫県三木市志染町）

北淡震災記念公園（兵庫県淡路市小倉）

③参加者：県民局各部所防災担当、管内市町防災担当者及び消防職員、防災公園建設担当者など

4 防災パネル展の開催

(1) 防災週間における防災パネル展

- ①日時：平成21年8月30日（日）～9月5日（土）
- ②場所：倉敷駅前商店街ビオス憩いの広場
- ③参加団体：県民局、くらしき市民防災ネットワーク
倉敷市災害ボランティアコーディネーター連絡会



(2) 防災とボランティア週間における防災パネル展

- ①日時：平成22年1月15日（金）～1月21日（木）
- ②場所：倉敷市役所正面玄関ロビー
- ③参加団体：県民局、倉敷市

成果・効果

- 1 住民の防災意識を育み、防災活動への参加を促すよう、住民の参加しやすい日程設定、わかりやすい講義内容など、参加者にあわせた会の開催に注力し、防災監は講師として土日にかかわらず講演会、講習会の講師を務め、広く自主防災組織の重要性や自助、共助の重要性を説き、地域の防災力の向上に寄与した。
- 2 自主防災組織のない地区においては、今後の組織編成を考える契機として、また、既存組織においてはその活性化の重要性を認識させることが出来、地域の防災力の向上に寄与した。

夢づくり協働推進事業の実施状況 6

事業名

環境セミナー「みんなでSTOP温暖化 井原線DE・もっとエコ」

事業の概要

6月の環境月間に合わせ、環境セミナーとして地球温暖化防止に関する講演会やパネル展示等を行い、県民一人ひとりが環境問題について学び考え、日常生活の中で問題解決に向けた行動を起こしてもらおう契機とした。加えて、セミナー会場を井原線が利用しやすい場所に設定し、イベント開催時の公共交通機関との連携のモデルケースとするとともに、カーボンオフセットに取り組むなど環境にやさしいイベント開催を提案した。

協働の主体・役割分担

協働の主体	役割分担内容
備中県民局 岡山西温暖化対策地域協議会 井原鉄道(株)	セミナー企画立案、事業委託実施 セミナー企画立案、事業受託実施 セミナー開会時間に合わせ、クールビズ列車を運行

実施状況

- 日時 平成21年6月7日(日)
- 場所 アクティブライフ井原(井原市七日市町12番地1)
- 内容
 - ・地球温暖化防止の講演会、ディスカッション
廣本悦子(おかやまエネルギーの未来を考える会会長)
古林伸美(湯原温泉旅館協同組合長)
中村泰典(吉備国地域づくり交流会事務局長)
播本博子(おかやまエコマインドネットワーク代表)
 - ・環境関係体験展示コーナー
環境すごろく、環境カルタ
地球温暖化、省エネルギー、新エネルギーのパネル展示、BDF車輛の展示
- 参加者 約120人
- その他
セミナー会場等の使用電力や来場者が使用した自動車から排出されたCO2について「グリーン電力証書」を購入。来場者にも「緑の募金」を呼びかけた。

成果・効果

講演会では県内各地の先進的な取組を紹介し、地球温暖化問題を自分のこととして捉え、身近なところから行動していくことの重要性を訴えることができた。

講演①



講演②



講演③



環境すごろく



パネル展示



BDF車輜



夢づくり協働推進事業の実施状況 7

事業名

備中発！まるごと環境体験ツアー

事業の概要

環境学習の場として優れた高梁川流域の特性を活かし、五感で環境問題を感じ、考えることのできる機会の提供を目的として、高梁川上流域・下流域相互間で環境体験ツアーを実施した。

(1) 高梁川源流探検コース

高梁川下流域に居住する小学生親子を対象に、環境保全意識の高揚を図ることを目的として、清流の水質調査や水生生物の調査、森林の自然観察等を実施した。

(2) 水島コンビナート環境体験コース

高梁川上流域に居住する小学生を対象に、産業活動と環境保全について学習する機会を提供することを目的として、水島コンビナートの事業場見学や瀬戸内海上での水質調査等を実施した。

協働の主体・役割分担

協働の主体	役割分担内容
備中県民局 かのさと体験観光協会 (財)水島地域環境再生財団	事業企画立案、事業委託実施 高梁川源流探検コースの事業企画立案、事業受託実施 水島コンビナート環境体験コースの事業企画立案、事業受託実施

実施状況

(1) 高梁川源流探検コース

期 日 平成21年9月13日(日)

場 所 新見市哲多町・神郷町(県健康の森エリア)

参加者 倉敷市居住の小学生(4～6年生)親子 32人(15組)

(2) 水島コンビナート環境体験コース

期 日 平成21年10月29日(木)・11月6日(金)

場 所 倉敷市水島(水島コンビナート)及び瀬戸内海上

参加者 新見市居住の小学生(4～6年生)及び引率教諭 94人(3小学校)

成果・効果

高梁川下流域の小学生が上流域の清流の生物や自然環境に直接触れ、また、上流域の小学生が下流域の水島コンビナートの環境対策や瀬戸内海の環境問題を知る機会を提供することで、地域の未来を担う小学生に、高梁川の上流と下流の繋がりを感じてもらうと同時に、環境保全意識を身に付けさせることができた。

(1) 高梁川源流探検コース

生物調査①



生物調査②



木工クラフト



森林観察



(2) 水島コンビナート環境体験コース
JFE見学



水島エコワークス見学



瀬戸内海クルーズ①



瀬戸内海クルーズ②



夢づくり協働推進事業の実施状況 8

事業名

租税教育推進事業（租税教室の開催）

事業の概要

国及び市町の税務機関、税理士会等の税務関係団体並びに小・中学校等の教育機関と連携、役割分担しながら、主として小・中学生を対象に租税教室を開催し、税金の意義、役割等についての知識を習得させ、将来の社会を担う児童・生徒の納税意識の高揚を図った。

協働の主体・役割分担

協働の主体	役割分担内容
教育機関 倉敷税務署 税務機関(国、県、市町) 税務関係団体(税理士会等)	租税教室の時間、場所の確保等 全体調整、講師の養成研修等 講師の派遣、教材の提供（税務署） 〃

実施状況

（備中県民局から講師を派遣したもの）

開催月日	開催小学校	租税教室参加者人数
1月19日	高梁市立有漢西小学校	6年生1クラス 9名
1月29日	倉敷市立赤崎小学校	6年生3クラス 86名
2月 2日	笠岡市立新山小学校	6年生1クラス 18名
2月 2日	新見市立正田小学校	6年生1クラス 14名
2月 4日	総社市立総社西小学校	6年生2クラス 48名
2月 8日	浅口市立金光吉備小学校	6年生1クラス 38名

（参考）平成20年度県下租税教室開催状況

区分	小学校	中学校	高校	合計
開催校数	262	42	23	327
校数	422	174	94	690
割合(%)	62.1	24.1	24.5	47.4



赤崎小学校



新山小学校



総社西小学校

成果・効果

小・中学生に税金の役割、大切さ等を分かりやすく説明することにより、税金の重要性を理解させ、将来の社会を担う児童・生徒の納税意識の高揚を図ることができた。

夢づくり協働推進事業の実施状況 9

事業名

「備中子育て晴れの国づくり」 大学子育て資源オープン化事業

事業の概要

新見公立短期大学に引き続き、協働の観点から管内大学における子育てカレッジ実現に向けて、岡山県立大学・倉敷市立短期大学において「模擬子育てカレッジ」を開催した。

協働の主体・役割分担

【岡山県立大学】

協働の主体	役割分担内容
岡山県立大学 (保健福祉学科、事務局、学生)	協働ミーティング参加、事業実施内容企画・立案、学内合意形成、親子交流ひろばの場所確保、事業へのボランティア参加
総社市	協働ミーティング参加、事業実施企画・立案、広報
地域子育て支援関係者	協働ミーティング参加、親子交流ひろばの運営
備中県民局 (健康福祉部)	子育てカレッジ提唱、協働ミーティング参加、情報発信

【倉敷市立短期大学】

協働の主体	役割分担内容
倉敷市立短期大学 (保育学科、事務局、学生)	事業実施内容企画・運営・参加、親子交流ひろばの場所確保
倉敷市	広報
子育て支援関係者	協力支援
備中県民局 (健康福祉部)	子育てカレッジ提唱、情報発信

実施状況

【岡山県立大学】

1 協働ミーティングの開催

学内合意形成を図るため、当初、県立大学教員・総社市こども課・備中県民局、必要に応じて県立大学事務局と調整を図りながら子育てカレッジのコンセプトづくり、親子交流の場所確保について議論を行った。

学内合意形成後は、市内子育て支援団体も参加し、「県大そうじゃ子育てカレッジ

実行委員会」として議論を継続している。

2 協働推進会議の開催

県立大学子育てカレッジ開設に向け、機運の醸成を図り、また、地域の子育て支援の連携を進めるため、平成22年2月9日（火）に県立大学において「協働推進会議」を開催した。

3 大学子育て資源オープン化事業の実施

平成22年4月からの継続運営に向け、3月中に「県大そうじゃ子育てカレッジ見学会」を2回実施した。なお、2回目についてはオープン記念式として実施した。

【第1回見学会】

(1)実施日 平成22年3月17日（水）

(2)場 所 岡山県立大学学部共通棟西ほか

写真

(3)内 容 見学会（育児相談、パネルシアター、親子ダンス等）

【第2回見学会（オープン記念式）】

(1)実施日 平成22年3月30日（火）

写真

(2)場 所 岡山県立大学学部共通棟西ほか

(3)内 容 オープン式及び見学会（学内ウォークラリー等）

【倉敷市立短期大学】

1 大学子育て資源オープン化事業の実施

教員・学生、保育者、親子等がともに出会い、ふれあい、深めあうことにより子育ての輪を広げることを目指す「たのしい子育て応援します！倉敷市立短期大学こどもの森2009」を実施した。

(1)日 時 平成22年2月14日（日）

(2)場 所 倉敷市立短期大学（本館2F 体育館）

(3)内 容 親子体操、人形劇、ポスター研究発表、子育て相談、心理ワークショップ等



成果・効果

備中県民局からの子育てカレッジ提唱による協働ミーティングの実施、大学子育て資源オープン化事業の実施により、岡山県立大学では21年度末に「県大そうじゃ子育てカレッジ」をオープンすることができた。

見学会には多くの親子が訪れ、普段訪れることがない広大なキャンパスを散策することによりリフレッシュでき、学生も参加する親子交流ひろばでは学生や他の親子と交流することで元気がもたらされたとの声も聞かれた。

また、総社市では次世代育成支援行動計画（総社っ子プラン）の中で「子育てカレッジ等の総合的な子育て支援センターの設置」を明記するなど、来年度以降の県大そうじゃ子育てカレッジの充実が期待される。

倉敷市立短期大学については、事業実施により子育てカレッジの実現に向けた機運が醸成されつつあり、児島地区子育て支援協議会を母体とした子育てカレッジ実行委員会の設立などを視野に入れながら引き続き子育てカレッジ実現に向けた提唱を行うこととしている。

夢づくり協働推進事業の実施状況 10

事業名

「備中子育て晴れの国づくり」 備中子育て晴れの国交流会
協働子育て支援学会（研究会）

事業の概要

子育て支援に関係する「産」「学」「官」「民」分野の様々な人々が出会い、学び合うことによる「知りあい、支えあい、高めあう」つながりづくり、次代を担う子どもたちが心豊かで健やかに生まれ育つ環境を目指し、地域全体でつながり支える子育てについて理解を深めあう「備中子育て晴れの国交流会」を開催した。

また、あわせて子育て支援に関する大学等専門機関の研究者と実践者による「協働子育て支援学会（研究会）」を開催し、大学等の研究・地域活動・行政施策の連携強化を図った。

協働の主体、役割分担

協働の主体	役割分担
岡山県立大学保健福祉学科（准教授）	講演、意見交換、交流等（交流会第1回）
NPO法人子ども劇場笠岡センター	会の企画・実施（交流会第2回）
にいみ子育てカレッジ	現地見学の実施（交流会第3回）
小ざくら地域子育て支援センター 子育て応援っこ	活動紹介（交流会第3回）
NPO法人びーのびーの（事務局長）	講演、グループワーク実施（交流会第4回）
岡山県立大学保健福祉学科（准教授） 新見公立短期大学幼児教育学科（助教） 倉敷発達障がい者支援センター（センター長）	研究発表、意見交換、交流（協働子育て支援学会）
地域子育て支援拠点関係者、NPO法人、子育てボランティア、大学関係者、主任児童委員、親子クラブ関係者、子育て中の親、管内市町 等	受講、グループワーク等における進行・意見交換、交流
備中県民局	交流会の実施、受講、グループワーク等における進行・意見交換、交流

実施状況

【第1回交流会】

管内市町子育て支援担当者を対象とし、地域子育て支援拠点の意義・役割を通し「子育て支援」を理解し合いながら、課題を共有し、解決への足がかりとなるつながりづくりを行った。

- (1) 日時：平成21年5月22日（金）
- (2) 場所：備中県民局会議棟
- (3) 内容：講演、グループワーク
- (4) 人数：19人



【第2・3回交流会】

管内において子育て支援に実績のある者と協働し、子育て支援に取り組む者又は関心のある者を対象とした取組事例見学会を行った。

あわせてグループワーク等を実施し、参加者の情報・意見交換等を行い、子育て支援に関わる者のつながりづくりを推進するとともに、それぞれのスキルアップ及び課題解決への足がかりとした。

第2回

- (1)日時：平成21年8月26日(水)
- (2)場所：NPO法人子ども劇場笠岡センター（笠岡市）
- (3)内容：施設見学及び活動紹介、グループワーク
- (4)人数：32人



第3回

- (1)日時：平成21年12月11日(金)
- (2)場所：にいみ子育てカレッジ（新見市学术交流センター内）
- (3)内容：活動紹介及び施設見学、参加者活動発表、グループワーク
- (4)人数：51人

【第4回交流会】

つながりを持った地域全体での子育て支援についての講演、様々な子育て関係者、同じ立場の子育て関係者との出会い、学び合いのための情報交換を行った。

- (1)日時：平成22年2月5日(金)
- (2)場所：備中県民局会議棟
- (3)内容：講演、グループワーク
協働子育て支援学会
- (4)人数：51人



【協働子育て支援学会（研究会）】

第4回交流会開催にあわせて、子育て支援に関する3名の大学等専門機関の研究者等による発表を行い、研究者と実践者等とが近い距離で意見交換を行うことにより、大学等の研究・地域活動・行政施策の連携強化を図った。



成果・効果

【備中子育て晴れの国交流会】

- 1 様々な分野の子育て・子育て支援に関わる方々が一堂に会し、講演・グループワーク・交流・現地見学等を行う交流会が、平成21年2月にスタートしたが、継続参加者はもちろん、新規参加者も加わり、子育てを通じたつながりが着実に広がりつつある。
- 2 参加者からは、以下のような感想が多数寄せられている。
 - ・交流会で顔を合わせた方には、普段でも連絡がとりやすくなり、困った時に気軽に相談できる関係ができて、つながりを実感している。
 - ・色々な立場の方々と様々な問題を討論でき、貴重な話を聞いて、大変勉強になるので今後ともこの取組を継続していただきたい。
 - ・みなさんから様々なアドバイスをもらい元気づけられ、今まで気づかなかった考え方・手法を知ることができた。
 - ・お互いに会話をする中で、子育てひろばに来られるお母さんたちが普段感じている子育ての不安感・孤立感を肌で感じて勉強になった。
- 3 交流会を通じて、相互理解の重要性とつながりをもった子育て支援の意義が認識され、地域全体で子育てに取り組む気運が高まるとともに、交流会の目的であるつながりづくりや会の必要性を再認識することができた。

【協働子育て支援学会（研究会）】

- 1 普段なかなか接する機会のない、大学等専門機関の研究者と知り合い、つながりづくりができた。
- 2 専門機関研究者の豊富な情報や広い視野からの研究、実践発表を聞くことにより、子育て支援関係者がこれまでの自己の取組を振り返り、今後の活動などに役立てていくきっかけづくりとなった。
- 3 研究の取組内容が、今後の行政施策を展開するためのヒントになると感じた。

夢づくり協働推進事業の実施状況 11

事業名

中山間SUN・山プロジェクト

事業の概要

「障害者が支援される側から、支援する側に」発想転換し、中山間地域の生活の困り感を障害者の就労ニーズに変える地域協働推進事業。

先進地NPO法人の視察、夢すき公園交流会の開催、生活の困り感調査の実施等を通じて、休園状態にある「夢すき公園」を活用することを視野に入れ、障害者の安定した就労の場の確保と居場所づくりを目指す。

協働の主体、役割分担

協働の主体	役割分担内容
NPO 法人 100万回のサーターたいへん	先進地 NPO 法人視察の実施 夢すき公園交流会の開催 地域の困り感調査の実施
新見市 新見市障害者自立支援協議会	夢すき公園交流会の支援 地域の困り感調査の支援
新見市神郷下神代地域住民	紙すき、そば打ち指導（夢すき公園交流会） そば打ち用具等の準備（ " ）
備中県民局（健康福祉部）	プロジェクト全体の支援

実施状況

1 先進地視察

(1) 実施日：平成21年9月16日（水）

(2) 実施場所：「おへんろの駅こくぶ」 高松市国分寺

※障害者と地域の人々が協働で開いたお遍路の接待所（休憩所）

(3) 参加者：神郷の園、健康の森学園、100万回のサーターたいへん、ハートフルあしん、風の音、ほほえみ広場にいみ 計50名

(4) 内容：おへんろの駅こくぶ」における軽食喫茶の営業方法や障害者の就労ノウハウについて説明を受け、意見交換を行った。

「おへんろの駅こくぶ」視察風景



2 夢すき公園交流会

- (1) 実施日：平成21年11月15日(日)
- (2) 実施場所：夢すき公園（新見市神郷下神代）
- (3) 参加者：神郷地域住民、100万回のサア-たいへん、新見市障害者自立支援協議会、新見市連合婦人会等 計200名
- (4) 内容：紙すき体験、そば打ち体験、障害者施設等の製品即売などを通じて障害者、地域住民、福祉関係者等が交流を深めた。

夢すき公園交流会風景



3 地域の困り感調査

- (1) 実施日：平成22年2月
- (2) 調査対象者：新見市神郷地区高齢者
- (3) 調査実施者：100万回のサア-たいへん、新見市障害者自立支援協議会
- (4) 内容：町内会の協力を得て、新見市神郷地区の高齢者20名を対象として生活の困り感調査を実施した。

成果・効果

- 1 夢すき公園交流会を障害者、障害者支援団体、地域住民等と協働で開催することにより、地域住民と障害者の相互理解が一層深まるとともに、同公園を障害者の就労の場、居場所にするという関係者の意識が高まった。
- 2 障害者、障害者支援団体等と協働で実施した先進地 NPO 法人の視察により、公園の管理や食堂の運営方法を学んだ。また、障害者自身の就労意欲の増進につながった。
- 3 生活の困り感調査により、農作業や家屋保守（雪かき、草刈り等）に関する人手不足の実態が明らかとなり、障害者の就労ニーズに結びつける足がかりを得た。

夢づくり協働推進事業の実施状況 12

事業名

夢づくり新見健やかネット会議

事業の概要

夢づくり新見健やかネット会議で栄養委員や愛育委員等の枠を超えた幅広い各種団体と関係機関と行政が協働して、食育やメタボリックシンドローム予防等の積極的な取り組みを行い、地域の健康づくりを推進し、地域住民への健康増進の意識啓発を図った。

協働の主体、役割分担

協働の主体	役割分担
夢づくり新見健やかネット会議 (備北保健所新見栄養改善協議会)	構成団体との情報交換 地区の各組織との連携で事業実施
備北保健所新見支所 備中県民局新見地域保健課	運営会議、企画立案

実施状況

1 夢づくり新見健やかネット会議（2回）

小中校長会・JA 阿新女性部・老人クラブ・PTA 連合会・保育所研究会・幼稚園教育研究会・にのみ農業後継者クラブ・栄養改善協議会・愛育委員会・環境衛生協議会・小中養護教諭代表・共生高校養護教諭・栄養教諭等で構成し、行政と協働して新見地域での食育推進の進め方や課題についての検討を行った。

- (1) 第1回会議：平成21年9月9日（火）
- (2) 第2回会議：平成22年2月23日（火）



ネット会議

2 各種研修会や講習会・街頭等での食育の普及啓発

各地域で行われる研修会や講習会等で食育についての啓発を図る。

- 街頭普及啓発 3回（食育月間及び食育の日のパンフ配布等）
- ・新見駅前 平成21年5月29日 200セット
 - ・サンパーク新見 平成21年6月16日 400セット
 - ・フレスタ新見 平成21年10月9日 200セット



サンパーク新見での街頭普及



新見駅前

3 食育講座

朝食大作戦（親子料理教室）保育園や幼稚園・小学校等と連携を図り、毎日食べよう 朝食大作戦を中心に食育を推進した。また、バランスの乱れが激しい若い世代の高校生や短大生を対象に食育講座を実施した。

- (1) 親子料理講座 10 回
- (2) 共生高校高校 1 回 26 名 平成 21 年 10 月 20 日
- (3) 新見短期大学 1 回 25 名 平成 21 年 11 月 5 日



講座状況



親子料理講座

4 すこやかかるた大会（8会場）

健康づくりをテーマとして作成した「健康21すこやかかるたを用いてかるた大会を開催し、子供等とのふれあいや地域での交流を深めた。

- 8会場実施 348人
- ①新見地区②蚊家地区③萬歳地区
- ④大佐地区⑤上市福本地区⑥菅生地区
- ⑦上市地区⑧哲多地区



すこやかかるた

5 食育フェア・ミニ食育フェア

食育に関する催し物を各会場で実施し、地域住民に食育の普及啓発を図る。

- *食品の釣り堀ゲーム（食品の役割）・お箸ゲーム・野菜ばかりゲーム
- だしあてゲーム・展示等



シガーライター



釣り堀ゲーム

- (1) 食育フェア 3会場
 - ①共生高校 平成21年 9月5日 参加数 延143名
 - ②歯科衛生展 平成21年11月8日 参加数 延268名
 - ③新見エコフェスタ 平成21年11月15日 参加数 延488名
- (2) ミニ食育フェア 4会場
 - ①夢すき公園：10月25日 120名
 - ②正田ふれあいセンター：11月15日 127名

- ③丸大店頭：平成21年11月18日 85名
 ④哲多総合センター：平成21年3月7日 30名

6 食農体験

新見市の特産物を知ってもらうクイズとその試食

- 山村開発センターでの青空市 平成21年10月12日 100名
 JA阿新Aコープでの農協祭 平成21年10月17日～18日 300名

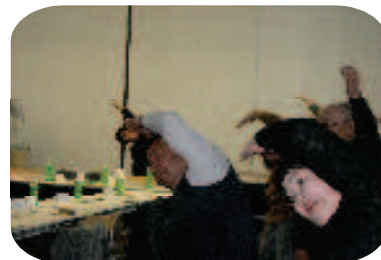
7 メタボリックシンドローム予防講座（運動）

健康運動指導士による運動の実践

平成21年10月～平成22年2月

8会場 294名

- ①上市地区②福本地区③新見地区
 ④哲多地区⑤井倉地区⑥大佐地区
 ⑦哲西地区⑧新砥地区



運動の様子

8 栄養成分表示店（22年2月末）

- (1) 平成21年度登録数 1店舗
 (2) 現在登録数45店舗（今までに5店舗廃止数に含まず）

9 禁煙実施施設数（22年2月末）

- (1) 平成21年度認定数 11施設
 (2) 平成21年度継続施設数 17施設
 (3) 現在認定数 117施設

成果・課題

1 ネット会議で事業の現状報告と今後の活動についての情報交換等を行い、活発な情報・意見が交わされ、今後のネット会議の取り組みについて討議した。

（主な意見）

- ・ネット事業を通じて、各種団体と交流する機会が増えるとともに参加団体が食育や健康づくり等の意識が変化した。
 - ・今まで交流がなかったような団体が積極的に参画するなどし、そのノウハウが各々の団体の活動にも活かされている。
 - ・今後もこのような交流の場が是非ほしいとの声が多数あった。
 - ・会議の中で話し合いができ、事業によっては、関係者との連携ができやすくなった。
- このことから、来年度以降についても同様の情報交換の場を設けることとした。

2 岡山県食育推進計画や新見市健康増進計画が策定されたので、この計画をふまえて子供から大人までのネット事業として、食育フェアやすこやかかるた大会等を実施し、地域の食育や健康づくりの普及啓蒙が図れた。

3 ネット事業を実施するにあたり、地域で各種団体と地域推進協議会を開催し、地域住民と健康づくりのコミュニケーションが図られた。

4 今までに作成した教育資材や普及啓発媒体を地域の食育や健康づくり等の催しに貸出有効に活用されている。

5 食育フェア等では、食に関する展示や食のゲーム等で改めて食生活の大切さを再認識する人が多かったので、今後もこのような事業は推進していく必要がある。

6 メタボリックシンドローム予防講習会では、市内の健康増進施設のげんき広場にいみと提携し、地域で講習会を実施したところ、受講者はこれからの健康増進に役に立つと好評であった。、今後は自分の健康増進を図り、受講していない人への啓発もしたいという人が多かった。

7 ネット事業を実施した地域へ、今後のネット事業への取り組みのアンケートを実施したら、ほとんどの地域は、今後も一部の事業をしたいとっている地域が多くあったので、今まで積み上げた効果だと思われる。

夢づくり協働推進事業の実施状況 13

事業名

県道 大佐日野線の整備

事業の概要

当該路線は、急峻で狭隘な地形が連続しており、幅員の狭小区間も多く、冬期の除雪作業にも多大な支障をきたしている状況である。

一方、山には種々の樹木が自生しており、新緑・木漏れ日・紅葉等は見事であり、また小坂部川の溪流にも身近に接することができ、自然景観に大変恵まれている。

この地域においては、沿線住民で組織する「大佐日野線三部落道路愛護会」が長年におたり、道路の草刈りやゴミ拾い等の道路美化活動を続けている。

新見地域事務所では、上記愛護会を中心とした地域住民・関係者と協働し、地域と密着した道路整備を進めるとともに、自然環境を生かした道づくりなど様々な可能性を模索した。


今後は、これまでの協働推進事業によって改善箇所も把握できたことから、来年度からは特に協働推進事業としてではなく、通常の事業メニューにより対応する予定である。

協働の主体、役割分担

協働の主体	役割分担
大佐日野線三部落道路愛護会 新見市	道路整備の提言・地元調整 道路清掃・草刈・樹木伐採
備中県民局新見地域事務所	協働事業の普及・啓発 道路整備の計画・立案、用地補償工事

実施状況

地元からの要望箇所について、優先順位や役割分担を考慮し、これまでに4箇所について事業を実施した。

①	<p>新見市大佐大井野(赤松) 道路拡幅工事 路側護岸工 年 度 H20～H21 事業費 28百万円(H21完成) 延 長 L=96m 幅 員 W=5.0m</p>	
②	<p>新見市大佐大井野(赤松) 道路防災工事 土留擁壁・落石防護柵工 年 度 H19～H20 事業費 10百万円(H20完成) 延 長 L=30m 幅 員 W=4.5m</p>	
③	<p>新見市大佐大井野(赤松) 道路防災工事 落石防護柵工 年 度 H20 事業費 2百万円(H20完成) 延 長 L=15m 幅 員 W=3.0m</p>	
④	<p>新見市大佐大井野(赤松) 県道と小坂部川間の立木伐採 延長 L=200m 道路愛護会・新見市</p>	

成果・効果

- 1 愛護会を通じて地元要望の集約・地元説明・用地交渉等について円滑に進めることができた。
- 2 住民との対話を重視し意向を出来る限り吸い上げることにより「住民の視点に立った道づくり」を進めることができたほか「自分たちの手で道路をつくり、まもる」といった地元の意識も醸成された。

夢づくり協働推進事業の実施状況 14

事業名

ビビッと備中！農林水産いきいきネットワーク

事業の概要

安全で安心な県産農林水産物の安定供給と消費拡大を図る地産地消県民運動を進めるため、管内の農林水産関係団体、行政機関、直売所、食品メーカー、消費者団体等の多様な主体との協働により設立された「ビビッと備中！農林水産いきいきネットワーク」（H18年3月設立、構成104組織 H22年1月末時点）が中心となり、備中地域の多彩な農林水産物やその加工品（6次化商品）等のPRを積極的に行うとともに、直売所の魅力を数多くの方に知っていただくショッピングラリーの開催やウェブサイトの整備を進めた。

また、宝塚アンテナショップを活用した県外への情報発信や商談会を通じた加工品の需要拡大、テスト販売に向けた商品品評会への出展など競争力のある売れ筋商品の開発を支援した。

さらに、女性の生活に密着した感覚を活かし、新たな地域特産品づくりを進めるため、様々な職能・価値観を有する女性が意見交換できるネットワークづくりを進めた。

協働の主体、役割分担

協働の主体	役割分担
幹事会	基本となる組織構成 [県民局（農林水産事業部）、市町・・・連絡調整]
活動本部	具体的な事業実施や活動を行う内部組織（複数） ネットワーク構成団体のうち、目的や事業内容に賛同する団体で構成 ネットワーク構成団体の発起により活動本部を設置

【活動本部の設置例】

- ▼第5回玉島築港桃祭り～子ども達へ食育～（平成21年6月16日～平成21年7月31日）
おかやま玉島市場LLP、倉敷市（農林水産課、特産品推進室）、備中県民局（農業振興課、協働推進室、倉敷保健所）
- ▼備中岡山たべられえ市（平成21年10月24日～平成21年10月25日）
イズミゆめタウン倉敷店、備中県民局（農業振興課、協働推進室）、趣旨に賛同するネットワーク会員（流通・消費関係企業、生産者団体、加工グループ、くらしき作陽大学等）

実施状況

1 直売所の活性化（魅力倍増）

（1）情報発信システムの機能強化

イベントや旬の食材の紹介を各施設管理者が直接入力し、生の声を伝えるWeb形式の「目からウロコの新情報システム」を平成20年度から開設しているが、より魅力あるシステムとして定着するよう、イベント等の情報をより効果的に表示し、参加施設の情報入力を促進するため機能の充実・強化を行った。

掲載施設数：120

直売所 69 体験施設 28

食事処 12 宿泊施設 21

*アクセス数：約850件/月



（2）ショッピングラリーの実施

直売所を広くPRし、地域特産品の購買意欲を喚起するため、直売所の買い物レシートを集めて応募する「ビビッと備中ショッピングラリー」を実施した。

開催期間：8月10日～11月30日 参加直売所：53施設

応募総数：2,256通（抽選会：12月28日）



2 備中地域農林水産物のPR（地産地消をテーマとしたフェアの開催）

フェア名称	月 日	場 所	来場者数
玉島港もも祭り	7月19日	倉敷市玉島	約 3,000人
大地産地消まつり	9月11～13日	総社市門田(天満屋リブ総社店)	約 8,500人
高粱ピオーネ祭	9月26日	高粱市落合町(ゆめタウン高粱ゆめ市場)	約 2,800人
高粱地域地産地消フェア	10月17日	高粱市中原町(ポルカ天満屋ハピータウン)	約 2,500人
新見地域地産地消フェア	10月18、19日	新見市高尾(JA阿新)	約16,000人
備中岡山たべられえ市	10月24、25日	倉敷市笹沖(イスマ倉敷サブリナ店)	約12,400人
エコ&フードフェア2009	11月 1日	岡山市大内田(コンベックス岡山)	約20,000人
うかん風ぐるまフェスタ	11月22日	高粱市有漢町(うかん常山公園)	約15,000人
倉敷市農業祭	11月29日	倉敷市福田町(福田公園)	約12,000人
井笠地域地産地消フェア	12月13日	笠岡市平成町(笠岡ふれあい青空市)	約 2,500人
延べ10回		来場者数	約94,700人

3 県内外に向けた多様な情報発信（物産展・商談会等）

区 分	期日・場所等	概 要
アンテナショップを活用した農産物・加工品のPR	8月1日～2月28日 兵庫県宝塚市 (宝塚店・花のみち店)	アンテナショップを設置しモニタリングを行うとともに、特産品のPR強化に向け、生産者による対面販売(店頭イベント：16回)を実施
売れ筋商品発掘市(商談会)	9月2日 大阪国際会議場	4団体が参加。(商談成立：3件) *商談継続中：5件
神戸*花あかりフェスタ	9月18～19日 3,000人 神戸ポートアイランド	備中地域農産物・農産加工品のPR販売及び宝塚アンテナショップの紹介
全国ふるさと観光物産展	9月21日 10,000人 豊中市せんちゅうパル	備中地域農産物・農産加工品のPR販売及び宝塚アンテナショップの紹介
岡山県人の集い	10月8日 350人 大阪新阪急ホテル	関西地域在住の岡山県出身者等を対象に特産品の紹介と利用推進を啓発
岡山・備中酒蔵めぐりフェア	11月30日 大阪天神橋筋商店街	日本酒に合う特産品(加工品)の提案を実施
岡山備中流いっぴん物産展	3月10日 大阪天神橋筋商店街	天神橋商店街内イベントスペースにて備中地域の農産物・特産品をPR販売
備中の恵み実感！料理人のための農林水産物展示会	3月3日 倉敷アイビースクエア	地域食材や特産品をホテルや飲食店、小売店、消費者に生産者自らがPR *商談PRブース：30ブース



物産展でのPR販売



宝塚アンテナショップでのモニタリング




備中酒蔵めぐりフェア

4 女性の視点や職能を生かした地域特産品づくりの推進

区 分	取 組 内 容
女性の職能を結びつけるネットワークづくり	大学教授、シェフ、野菜ソムリエ、料理研究家、NPO団体、消費者モニター、生産者の7名からなる「ビビット食農！プロフェッショナルチーム2009」を結成(H21.8.4)し、アドバイザー制度を構築。 ・ミーティング等の開催：7回

<p>女性の感性を生かした商品づくり、PR方法の推進</p>	<p>全国の百貨店・スーパー等に向け販売できる加工品開発を目指す「いいものづくり塾」を開催。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いいものづくり塾：(第1回)10月20日、(第2回)3月3日 <p>良品工房のシステムを活用した半年間の試験販売(実売)を試行。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・エントリー品目：農産物2品、加工品8品 ・試験販売予定先：伊勢丹新宿店、紀伊国屋、パレ・マルシェ、天満屋等 <p>シンポジウム「地域特産品が結びつけるネットワーク活動」を開催。 [平成22年3月3日 倉敷アイビースクエア 加工グループ等約100名]</p>
<p>女性の視点による特産品ガイドの作成</p>	<p>女性の視点から地域食材・加工品を見直し、新しい食べ方・利用法を織り込んだ特産品ガイド「大切な人と家ごはん」を作成。</p> <p>A5版、32頁、3,000部作成</p>

5 食料自給率の向上に向けた地産地消運動の啓発推進

<ul style="list-style-type: none"> ・備中地域食料自給率向上対策会議の設立 (H21.10.29) ・倉敷駅西ビル大型テレビSky-TVでのCM放映 (10月1日～11月30日) ・毎月5の付く日を地産地消の日として地域食材使用を推進 <ul style="list-style-type: none"> 天満屋倉敷店での出張朝市の開催 (10月～3月の5・15・25日) 県民局食堂での地産地消弁当の販売 (10月～12月の5・15日) *H22年1月からは毎日限定5食(5日は30食)の地産地消弁当を提供 ・小中学生や消費者を対象とした出前講座の実施：4回 (11/22・11/29・12/18・2/23) 	 <p>Sky-TVでのCM</p>
--	--

成果・効果

- 1 既存の「目からウロコの新情報システム」について、直売所から直に情報提供ができるようシステム改良を行ったことで、各施設からのインターネットを通じた情報発信を効果的に行え、魅力ある直売所情報の発信体制が整備され、内容の充実が図られた。
- 2 直売所のPR、購買意欲向上のため「ショッピングラリー」を開催し、リピーターの定着化と地域イベントと連携したPRによる集客の向上を図ることができた。
- 3 各地域で進めてきた「地産地消フェア」は、各組織での主体的な取組みが定着しつつあり、協働の輪が広がるとともに地域食材への関心が高まっている。また、消費者との交流が生産意欲の高揚や地域の活性化にも役立っている。
- 4 アンテナショップを中心に関西圏への備中地域の売り込みと「食」に関するモニタリングが展開された。販路拡大に向けた各種情報・機会の提供により、民間のノウハウ・システムを活用した百貨店等への商品紹介や生産者自らが参加しPRする展示会・商談会方式による販売戦略が浸透しつつある。
- 5 様々な職能・価値観を有する女性7名からなるネットワーク「ビビッと食農！プロフェッショナルチーム2009」を結成し、既存の地域食材・加工品の魅力アップや新たな魅力づくりを提案し、地域特産品の開発を支援するアドバイザー制度を整備した。また、7名の意見を取り入れた地域特産品ガイドを作成し、地域食材・加工品の新たな利用法を提案した。
- 6 食料自給率の向上を目指した地産地消運動の啓発活動として、CM放映、毎月5の付く日を地産地消の日として地域食材使用の推進を行ってきたことにより、県民の地産地消への理解や意識が高まりつつある。また、飲食店、ホテル等へ備中地域の食材・加工品をPRしたところ、地場産食材に関心を持つ関係者が増えつつある。

夢づくり協働推進事業の実施状況 15

事業名

備中流耕作放棄地再生モデル事業 —都市との交流による耕作放棄地の解消—

事業の概要

過疎化、高齢化が進み、地域の活力が減退が著しい中山間地域では、耕作放棄地が拡大してきている。耕作放棄地の拡大は、鳥獣害の増加など地域の営農に支障を来すだけでなく、農地のもつ洪水防止や水資源涵養、土砂流出防止等の多様な公益的機能が損なわれるため、その解消・活用が喫緊の課題である。

そこで、都市農山漁村交流や農村景観の保全等に関心を持つ都市住民と地域住民、大学、県民局等が協働し、耕作放棄地の解消方策や耕作放棄地を活用した地域の活性化方策を検討するとともに、都市住民との交流の実践により耕作放棄地の解消、中山間地域の活性化を図った。

協働の主体、役割分担

協働の主体	役割分担内容
星の郷青空市（株）	モニターツアー受入、体験メニューの実施等
株式会社高瀬振興	同上
山ノ上干柿生産組合	農作業応援の受入、作業指導、交流会の開催等
岡山大学農学部	調査研究の実施、農作業応援
井原市（美星支所）	各協働主体との連絡調整等
新見市（神郷支局）	同上
矢掛町	同上
備中県民局	事業内容の企画、参加者募集、各協働主体との連絡調整等

実施状況

1 耕作放棄地を活用したグリーン・ツーリズムモニターツアーの実施

都市住民18名と地元住民、関係機関との協働により、耕作放棄地を再生して栽培したそばの収穫体験やそば打ち体験を実践するとともに交流を深めるモニターツアーを実施した。

（1）実施期日及び実施内容

① 11月8日（日）

- ・耕作放棄地を再生して栽培したそばの収穫体験

- ・コンニャクづくり体験

② 12月20日（日）

- ・①で収穫体験したそばを用いたそば打ち体験
- ・もちつき交流会

(2) 実施場所 井原市美星町



再生作業（トラクターで耕起）



そば収穫体験

2 都市住民等との協働による耕作放棄地の解消

都市住民12名と地域住民、市、県民局等が協働して、耕作放棄地の解消活動を実践するとともに交流を深めるモニターツアーを実施した。

(1) 実施期日 10月24日（土）～25日（日）〈1泊2日〉

(2) 実施場所 新見市神郷高瀬

(3) 実施内容

- ・耕作放棄地再生作業体験（耕作放棄地での草刈り、ウメ植栽）
- ・野菜収穫体験（トマト、ハクサイ等の収穫）
- ・キムチづくり体験
- ・ご汁づくり体験（高瀬地区の伝統的なご汁づくり）
- ・餅つき体験（高瀬地区で収穫されたもち米を使用）



耕作放棄地再生作業体験



キムチづくり体験

3 大学との協働による耕作放棄地解消方策の検討・実証

岡山大学への委託により、耕作放棄地の解消及び中山間地域等の活性化に資する目的で、集落内に存在する地域資源を活用した耕作放棄地の解消方策や耕作放棄地を生かした地域の活性化方策を調査研究している。

同時に、地域の基幹品目であるほし柿づくりを岡山大学生等7名が支援することを通じて、大学生等と地域住民とが交流を深め、地域の活力向上を図り、耕作放棄地の解消を図るモデルとした。

3-1 耕作放棄地の解消方策調査研究の委託

- (1) 委託先 岡山大学（農学部）
- (2) 実施期間 平成21年11月2日から平成22年3月31日まで
- (3) 調査対象地域 小田郡矢掛町小田山ノ上
- (4) 内容
 - ・集落の現状把握及び将来予測（集落内の労働力の計測、農地マップの作成等）
 - ・地域内に存在する資源の整理（「干し柿」に関する資源、耕作放棄地等）
 - ・地域資源の評価（地域外の住民から見た評価）
 - ・地域資源の活用方策の立案
 - ・地域の活性化方策の提案

3-2 大学生によるほし柿づくり支援

- (1) 実施期日 平成21年11月14日（土）
- (2) 参加者 22名（岡大学生6名、准教授1名、地域住民15名）
- (3) 実施場所 矢掛町小田山ノ上
- (4) 実施内容
 - ・苗木植え付け応援（耕作放棄地を再生した畑に柿の苗木を植え付け）
 - ・柿の収穫応援（ほし柿に加工する柿（西条柿）の収穫を応援）
 - ・柿の皮むき応援（収穫した柿の皮むき）
 - ・昼食交流会（山ノ上の住民と大学生とが昼食をとりながら交流）
 - ・地区内散策（散策により地区への理解を深めた）



苗木植え付け応援



柿の皮むき応援

4 都市住民への情報発信や地元住民の取組み促進による耕作放棄地対策の推進

中山間地域の住民等との協働により、県南の都市住民約 20 名を対象にしたグリーンツーリズムを実施することにより、地域の取組みを促すとともに、都市住民に耕作放棄地の現状と対策の必要性を認識してもらい、耕作放棄地対策の推進につなげる。

- (1) 実施期日 平成 22 年 3 月 20 日 (土)
- (2) 実施場所 新見市
- (3) 実施内容
 - ・耕作放棄地の現状とそれにより生じる問題の説明
 - ・地元住民との交流、農業体験等

5 耕作放棄地解消方策調査

耕作放棄地の状況は地域によって様々であり、その状況に応じたきめ細かい取組が求められている。

そこで、状況の異なる 2 地域について、それぞれ耕作放棄地の解消方策や集落（地域）の活性化方策等を、地域住民や関係機関等との協働により調査・検討し、今後の耕作放棄地対策のモデルとする。

- (1) 委託先 岡山県土地改良事業団体連合会
- (2) 実施期間 平成 22 年 2 月 1 日から平成 22 年 3 月 31 日まで
- (3) 調査対象地域 総社市高間及び高梁市備中町布賀中・布賀東
- (4) 内容
 - ・地区の現状把握及び地区内資源に関する調査
 - ・上記調査を基にした地区の将来見込み
 - ・上記を踏まえた上での地域の耕作放棄地解消方策及び集落活性化方策の提案

成果・効果

- 1 都市住民や学生に、耕作放棄地の現状や問題点をある程度認識してもらうことができた。
- 2 都市住民や学生との交流活動を通じて、地域の活性化を図ろうとする意識が地域住民に芽生えつつあり、活動を継続することによって、耕作放棄地の発生防止や解消、中山間地域の活性化が徐々に進むものと期待される。また、活動の継続により、都市との交流による耕作放棄地再生のモデルとして、他地域への波及効果も期待できる。
- 3 農業体験（そば収穫体験、こんにゃくづくり体験、そば打ち体験、野菜収穫体験、キムチづくり体験、もちつき体験等）を通じて都市住民等が農業に親しむことにより、地元農産物の見直しにつながった。

夢づくり協働推進事業の実施状況 16

事業名

地域の森林^{もり}づくり協働事業

事業の概要

本来、人の生活の一部として身近であった里山や竹林をはじめとする森林は、生活様式の変化や都市化により非日常の象徴となりつつある。

その一方で、地球温暖化問題を契機として森林のもつ多面的機能が注目され、森林を環境問題啓発を目的とした教育・研修の場として活用したり、地域住民の手によって地域の森林を守り育てようとする活動が各地で実践されている。

このため、地域で取組まれている里山保全や竹林整備などの森林活動について、イベントの開催、資機材の配備などの支援を行った。

1 おかやま森づくり県民基金事業（自主活動支援型）

里山利用グループやNPO等の里山保全グループから、里山の保全や地域づくりにつながる活動に係る実施活動プランを公募し、活動経費の一部を助成した。

2 里山の竹林整備協働事業

(1) 竹林整備のつどいの開催

企業等のボランティアにより、手入れされず放置された竹林の除間伐と竹の利用を行った。

(2) 竹林整備体験学習会の開催

小学校等児童を対象として「竹林整備のつどい」で整備された竹林内でのシイタケ原木の伏込みや、伐採された竹の炭焼きなどの体験学習を行った。

協働の主体、役割分担

1 おかやま森づくり県民基金事業（自主活動支援型）

協働の主体	役割分担
里山を保全・活用するNPO法人、地域住民グループ等の里山保全グループ	<ul style="list-style-type: none"> ・里山の保全・活用 ・地域住民との連絡調整 ・他地域の里山保全グループとの交流
市町（倉敷市、井原市、高梁市、新見市、里庄町）	<ul style="list-style-type: none"> ・里山保全グループとの連絡調整 ・里山整備計画指導
備中県民局、地域森林課	<ul style="list-style-type: none"> ・里山整備計画指導、現地指導 ・里山保全グループ交流の連絡調整 ・里山保全グループの活動経費を一部助成

2 里山の竹林整備協働事業

協働の主体	役割分担
企業・団体等のボランティア 小中学校等の教育機関	<ul style="list-style-type: none"> ・活動への積極的な参加
真備美しい森管理運営協議会	<ul style="list-style-type: none"> ・活動への支援、協力、資機材の提供
倉敷市真備支所	<ul style="list-style-type: none"> ・活動への支援、協力
倉敷地域美しい森づくりの会	<ul style="list-style-type: none"> ・活動内容の企画・立案 ・参加者との連絡調整
備中県民局	<ul style="list-style-type: none"> ・竹林整備指導、森林環境教育

実施状況

- 1 おかやま森づくり県民基金事業（自主活動支援型）
（6グループ実施、52回(予定含む)開催、延べ634人参加）

活動グループ	①北面竹炭同好会(倉敷市連島町矢柄)		
活動内容	回数	人数	備考
竹林の荒廃を防止するための枯竹等の伐採、竹炭製作。	10	50	9/1～



枯竹の伐採搬出作業

活動グループ	②後月ふるさと塾(井原市芳井町吉井)		
活動内容	回数	人数	備考
愛宕山、明治ダム広場の森林整備や散策路整備。伐採木を活用したシイタケ栽培等。	7	116	5/23外 6回



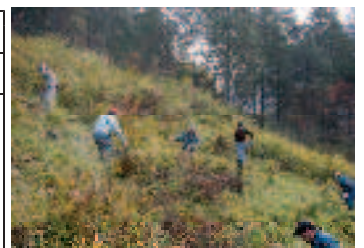
伐採木への植菌作業

活動グループ	③櫛の杜塾(井原市門田町)		
活動内容	回数	人数	備考
門田地区にあるケヤキ林の下刈り、枝打ち、植樹等の森林整備。	8	130	6/13 外7回



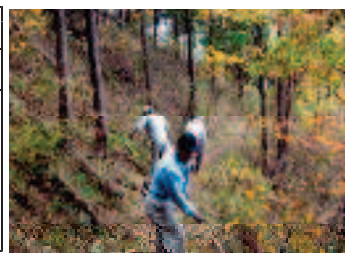
ケヤキの純林の下刈作業

活動グループ	④NPO法人ふれあいの里・高梁(高梁市浜町)		
活動内容	回数	人数	備考
ブッポウソウの保護・繁殖を目的とした草刈り、不要木除去等の森林整備。	2	110	2月から実施



生息地周辺の草刈作業

活動グループ	⑤福本地域振興会（新見市坂本）		
活動内容	回数	人数	備考
矢の峰登山道の整備及び千屋ダム湖畔「もみじの森」の草刈り作業の実施。	2	70	9/27 11/1



登山道の維持補修作業

活動グループ	⑥高岡地区山王里山保存会（里庄町里見）		
活動内容	回数	人数	備考
丁山（木の山様）の下刈り、遊歩道整備、案内板設置等の実施。	23	158	9/5外 22回



丁山の林内整備活動

2 里山の竹林整備協働事業

(1) 竹林整備のつどいの開催（4回開催、117人参加）

年月日	開催場所	参加者	参加者数	実施内容
H21. 10. 31	真備美しい森	崇教真光 青少年育成会	45	竹の伐採、枯竹・倒竹の整理、チップ化 ドングリ播種
H21. 11. 19	真備美しい森	教職員初任者	27	竹の伐採、枯竹・倒竹の整理、チップ化 森林教室
H21. 11. 25	真備美しい森	中国電力(株) 倉敷営業所	15	竹の伐採、枯竹・倒竹の整理、チップ化
H22.3.上旬 (予定)	真備美しい森	一般県民 (公募)	30	竹の伐採、枯竹・倒竹の整理、チップ化 森林教室
計		4回	117	



中電（竹林整備）



中電（チップ化）

(2) 竹林を活用した体験学習 (3回開催、72人参加)

年月日	開催場所	参加者	参加者数	実施内容
H21. 9. 21	真備美しい森	ボーイスカウト	15	竹の伐採体験、木工教室
H21. 11. 19	真備美しい森	教職員初任者	27	竹炭づくり体験
H22.3. 上旬 (予定)	真備美しい森	一般県民 (公募)	30	竹炭づくり体験
計		3回	72	



ボーイスカウト (木工教室)



教職員初任者 (竹炭づくり体験)

成果・効果

1 おかやま森づくり県民基金事業 (自主活動支援型)

地域の豊かな自然環境を見つめ直し、先人の暮らしと共に守られてきた里山を次世代により良い形で引き継ごうとする気運が醸成されている。

また、農林業への関心と理解が深まるとともに、森林を守り育てる「人づくり」「ネットワーク」づくりや地域の価値観増進につながっている。

2 里山の竹林整備協働事業

竹林という地域の特性を反映させながら、多様な主体の参画により実体験ができる場を提供、技術支援等を行うことで、企業・団体等の里山保全活動を通じた社会貢献活動への参加を助長するとともに、農林業への関心と理解を深めてもらうことにつながっている。

夢づくり協働推進事業の実施状況 17

事業名

木育でストップ・ザ・温暖化

事業の概要

木材の需要拡大は一朝一夕にはいかず、幼少期からの息の長い取り組みが必要であることから、小学校における森林・林業教育を「木育」としてより積極的に展開し、将来にわたる林業後継者の育成とグリーンコンシューマー（環境意識の高い消費者）の裾野拡大を図った。

- 1 新見市内の小学校 23 校から、「木育モデル校」を募集し、2 校において、木工教室などの木育授業を行うとともに「木」を使った卒業記念作品等の製作を行った。
- 2 地球温暖化防止を進めるためには、循環型社会の構築が不可欠であり、中でも、森林保全とそこから生産される木材を積極的に使用することで二酸化炭素を固定することが重要であることを説明した。

協働の主体、役割分担

協働の主体	役割分担
市（農林課・教育委員会）	学校との連絡調整
学校（モデル校）	授業時間の確保等
森林組合・製材業者等	木工材料の提供等の協力
美しい森づくりの会	木工機械器具の無料貸出
県（地域森林課）	木育の講師、必要に応じて人材・予算の確保

実施状況

- 1 木育モデル校の募集
新見市内の小学校に募集したところ、2 校から応募がありモデル校に決定した。
- 2 木育授業の実施

(1) 新見市立菅生小学校

①開催日：平成22年1月26日（火）

②開催場所：新見市立菅生小学校

③参加者：5・6年生 6名

④実施内容

ア 林業教室：地球温暖化防止と森林の役割

イ 木工教室：ミニカートボックス製作、テーブル・イスの組立



(2) 新見市立新砥小学校

①開催日：平成22年2月15日（月）

②開催場所：新見市立新砥小学校

③参加者：5・6年生 13名

成果・効果

「木を伐採すること」は自然破壊ではなく、森林の多面的機能を発揮し持続可能な林業経営と、木材を積極的に使っていくことが地球温暖化防止にとって、極めて重要であるという正しい知識を木育授業を通じ理解が図られ、将来にわたる林業後継者の育成とグリーンコンシューマーの裾野拡大につながっている。

夢づくり協働推進事業の実施状況 18

事業名

地域の食文化伝承と地域農産物活用促進事業

事業の概要

近年、食を取り巻く環境がめまぐるしく変化する中、備中地域の中で育まれた食文化の見直しとその良さの伝承、安全・安心な農産物を提供することで、生産者と消費者をより近づけ、相互協働による地産地消の推進が必要になっている。

そこで、備中地域の先人の知恵を集めた「備中地域”食・くらしの知恵と技”」事例集を活用し、倉敷地域では食に関する知恵と技の保有者である「技あり会」を中心として、広く一般消費者に対し、講習会や交流を通して食文化を伝承した。また、井笠地域では地域食材を活かした料理、加工品及び郷土料理の講習会や試食会を開催し、食文化の伝承を通じて地域農産物の活用による地産地消や食育の浸透を促進した。

協働の主体、役割分担

協働の主体	役割分担内容
倉敷・井笠地域の技術伝承者 (生活交流グループ員、技あり会員、 栄養委員、農協女性部員)	食・くらしの知恵と技等伝承技術の提供
井笠の味づくり研究会 (生活交流グループ員、農協女性部員、 漁協女性部員、酪農女性部員)	井笠地域の農林水産物を活用した料理の創出 と普及、地産地消、食育推進
市町等関係機関(倉敷市民学習センター、 早島町公民館、倉敷健康福祉プラザ)、 県文化振興課、NPO法人	活動協力、地産地消推進、食育推進
県民局(農業普及指導センター)	事業企画立案、技術伝承者の活動支援

実施状況

1 伝承塾等の開催

(1) 倉敷地域

ア 伝承塾等の開催

技あり会、倉敷市民学習センター、早島町公民館、倉敷健康福祉プラザ、県文化振興課と協働により、各公民館等の活動と連携してそれぞれ「地元産！旬の食材をおいしく」「おいし〜い！岡山の米」をテーマとする講座等を開催し、「備中地域食とくらしの知恵と技」事例集をテキストとして講習会を実施した。（13回（予定を含む））



親子に地元産農産物を使用した菓子作り伝承（8月23日、倉敷市民学習センター）



地元産農産物を取り入れた米粉パンづくり指導（12月19日、倉敷市中央公民館）

(2) 井笠地域

ア 「井笠の味伝承講習会」の開催

井笠の味づくり研究会員が講師となって、地域住民（親子・小学生・一般を対象に）地域食材を使った料理の紹介と実習を行い、地域特産品のPRと食育、郷土料理の伝承を行った。（15回）



小学生対象伝承講習会（8月5日
浅口市・JA岡山西六条院支店）



親子対象伝承講習会（8月28日
里庄町公民館）

イ 「井笠の味試食会」の開催

井笠地域の食材を使った料理の展示と試食をし、料理や加工品の紹介と消費者との意見交換を行い地産地消及び食育を推進した。（4回）



試食会の様子（6月24日
笠岡市・サンライフ笠岡）



試食会の様子（11月10日
笠岡市・サンライフ笠岡）

成果・効果

- 1 旬の地元食材の活用方法を紹介することにより、備中地域の農産物に対する消費者の関心が高まった。
- 2 地域に伝わるくらしの知恵や食文化の伝承等を通じて、生産者と消費者の交流や世代間の交流が深まった。
- 3 親子食育体験を行うことで、次世代への食文化の伝承を行うことができた。
- 4 井笠の味百選商品として、6品（「井笠の味弁当」「青大豆ごはん」「黒豆寿司」「小魚ミンチコロケ」「スタミナ漬」「ノンオイル青じそドレッシング」）を商品化し、地域イベント等で販売を開始した。

夢づくり協働推進事業の実施状況 19

事業名

農商工連携による備中高梁ブランド「ピオーネ加工品」開発支援（高梁市）

事業の概要

地産地消活動が高まる中、高梁地域の特産物であるピオーネを使った特産品づくりの機運が高まっている。高梁商工会議所が事務局となり、商工会議所や観光協会、市、普及センター、地元加工業者が一堂に会し特産品開発を協議する「備中高梁ブランド推進協議会」が設立され、特産品づくり研究会や「備中高梁ブランド」認定事業に取り組んでいる。

この備中高梁ブランド推進協議会において、農商工連携による特産品開発を協議する中で、地元洋菓子業者からピオーネの一次加工品を活用した商品開発の意向を受け、神原ぶどう部会の協力のもとピオーネの一次加工に取り組んだ。

また、新しい高梁の特産品を目指して、農家が加工に取り組んでおり、農商連携による販路拡大も図っている。

協働の主体、役割分担

協働の主体	役割分担内容
備中高梁ブランド推進協議会 構成員：高梁商工会議所(加入事業者)、備北商工会、高梁市観光協会、高梁市、高梁農業普及指導センター、高梁市、高梁市文化連盟他	<ul style="list-style-type: none"> ・特産品づくり研究会の開催 ・農商工連携セミナーの開催 ・備中高梁ブランドの認定 ・備中高梁ブランド商品の販売支援 ・備中高梁ブランド開発商品の試食会開催 ※経済産業省の「地域資源∞全国展開プロジェクト」事業を導入
神原ぶどう部会	<ul style="list-style-type: none"> ・ピオーネシロップ漬け及び丸ごと干しぶどうの一次加工品の製造
百姓のわざ伝承グループ	<ul style="list-style-type: none"> ・備中高梁ブランド商品(農産加工品)の開発

実施状況

1 特産品づくり研究会の開催

(H21.4.8、H21.10.21、H21.12.21)

特産品づくり研究会において、地元加工業者と新たな特産品開発に向けた連携の在り方を協議した。

また、研究開発した商品の販路開拓について協議した。

この研究会において、洋菓子業者からピオーネの一次加工品(シロップ漬け等)を菓子材料として活用したいとの要望を受け、一次加工品の製造に取り組むことになった。



研究会で協議

2 備中高梁ブランド認定審査会及び交付式の開催

(H21.4.28、H21.6.15)

高梁市内で製造し、高梁にゆかりのある加工品を対象に備中高梁ブランドの認証制度を設けている。今年度 2 回目の審査が行われ、6月15日に7品目を新たに認証した。

認証された商品については、ブランドのマークを添付して販売することができる。



ブランドマーク

3 開発商品の試食会の開催

(H21.7.15、H21.11.27)

今年度新たに開発研究された商品について、試食会を開催し、味・見た目・価格・パッケージなどについてアンケートを実施し評価を得た。

地元加工業者に交じって、農業者の組織である百姓のわざ伝承グループが「高梁紅茶」の製造に取り組んでおり、試食評価会でも紅茶の試飲を行った。



備中高梁ブランド品を目指して
高梁紅茶の製造に取り組む

4 ピオーネ一次加工品の製造

(1) ピオーネシロップ漬け



シロップ漬け加工の様子

神原ぶどう部会が自家で栽培したピオーネを持ち寄り、皮を残したままのシロップ漬け加工に取り組んだ。



袋に詰めたシロップ漬け

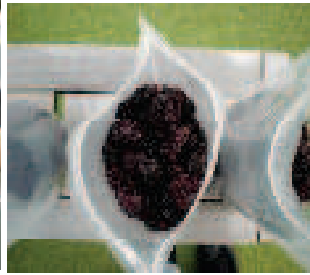
出来上がったシロップ漬けは、一カ月冷蔵庫で保管し、出来上がり状況を確認したのち、洋菓子業者へ納入した。

(2) ピオーネまるごと干しぶどう



出来上がった干しぶどう

初めての試みとして、ピオーネをまるごとシイタケ乾燥機を活用し、干しぶどうに加工した。



出来上がった干しぶどうも洋菓子業者に納入し、菓子材料として活用してもらっている。

農業者が自家栽培しているものを自ら一次加工し、できた一次加工品を地元の加工業者が活用するシステムづくりの一步となった。

5 菓子業者による新商品の開発



干しぶどうを入れたロールケーキ



干しぶどうのカップケーキ



手土産用の箱

地元洋菓子業者が、ピオーネの一次加工品を使って、新たな商品を開発した。丸ごと干しぶどうを入れたロールケーキ、干しぶどうをのせたカップケーキ、また、シロップ漬けはカスタードクリームと相性が良かったことから、デニッシュパンに活用した。これらの商品は、高粱の味覚として店頭で販売されている。

成果・効果

- 1 特産品づくり研究会において、加工業者の意向が関係者に伝わり、農商工連携の在り方を検討することができた。
また、できた商品の試食会で評価を得ることができ、PRと販路拡大につながった。
- 2 農家が自ら加工した一次加工品を菓子業者が活用するシステムが構築され、来年度以降加工数量を増やしながら高粱の味としての定着を目指す。
- 3 備中高梁ブランド推進協議会の活動に農業者が加わることで、地域産物を活用した産品育成の機運が高まっており、新たな農商工連携が期待できる。

夢づくり協働推進事業の実施状況 20

事業名

トマト栽培を核とした村づくり・地域力の向上

事業の概要

平成 18 年に発足した新見市トマトサポート協議会の活動を通じ、新見市神郷地区をモデル地区としてトマトの新規参入者を中心とした新規就農者の確保を図り、トマト産地の拡大と地域活性化を図った。

協働の主体、役割分担

協働の主体	役割分担内容
新見市トマトサポート協議会	阿新農協トマト部会：農業研修及び地域受入れ 農協：生産販売指導及び実務研修事業実施 市：県外就農相談会での産地、地域紹介及び事業助成等 市農業委員会：住宅、農地の紹介 普及センター：県内外での産地、地域紹介及び事業推進

実施状況

1 就農相談会（県内外）での産地、地域紹介	県内 6 回、県外（大阪市） 5 回	
2 トマト栽培見学ツアーの開催 ・栽培ほ場と選果場の見学及び生産者との交流	7/14 新見地域オリエンテーション	17 人
3 短期農業体験研修の実施 ・栽培管理及び収穫体験、選果場見学	6 回	6 人
4 新規就農促進連絡会議の開催 ・関係機関及び関係者の役割分担、住宅及び農地の情報提供	8/16 新郷市民センター	
5 農業体験研修の実施（1 か月間） ・農作業及び農村生活体験の実施	9 月 1 日～ 30 日	1 人
6 農業実務研修の実施（1 年間） ・農作業の実践トレーニング及び就農候補地（空家、農地）の見学	4 月 1 日～	1 人
7 定年帰農者等に対する就農支援 ・就農準備講座での栽培管理実習	5 回	延べ 35 人

成果・効果

- 1 農業体験研修及び農業実務研修で新規参入者各 1 名の受入れがあった。
- 2 就農準備講座の受講生 1 名が平成 22 年度から本格的にトマト栽培を開始する。
- 3 新規参入者の受入れを中心とした新規栽培者の確保体制が定着してきた。

4 職員研修の実施

(1) 県民局職員、市町職員、NPO等を対象とした協働の基礎研修 ～協働の基礎知識を学ぶ～

【協働基礎研修会】

日 時	平成21年9月24日(木) 13:00～15:00
場 所	備中県民局会議棟1階第1～3会議室
参加者	県民局職員37人、市町職員11人、NPO等5人
講 師	古賀桃子(特定非営利活動法人 ふくおかNPOセンター 理事長)
内 容	講義「NPOと行政の協働について～もっと協働を知りたい～」

(2) 県民局の各部所で協働を推進する職員(連絡会議委員、協働推進員等)を 対象とした協働の応用研修 ～ワークショップを通じて、課題の共有化や課題解決の手法を学ぶ～

【協働応用研修会】

日 時	平成21年10月14日(水) 10:00～16:00
場 所	備中県民局会議棟1階第1～3会議室
参加者	県民局職員19人、市町職員4人、NPO等4人
講 師	古賀桃子(特定非営利活動法人 ふくおかNPOセンター 理事長)
内 容	ワークショップ 「NPOと行政の協働について～ワークショップからはじめる協働事業」

(3) 一般県民等を対象とした地域活性化を図る研修

【協働リーダー養成研修会】

日 時	平成22年2月14日(日) 13:30～16:00
場 所	備中県民局会議棟1階第1～3会議室
参加者	一般県民等 55人
講師等	鈴木康正(津山ホルモンうどん研究会 代表) 江端恭臣(日生カキお好み焼き研究会 会長) 羽原利彦(ラーメンのまち笠岡全国展開プロジェクト推進委員会 委員長) 加藤せい子(特定非営利活動法人 吉備野工房ちみち 理事長)
内 容	「地域づくり」について考える ～ご当地グルメでまちづくり～

5 夢づくり推進表彰の実施

(1) 夢づくり大賞（知事表彰）

【表彰式】

日時：平成21年6月2日（火）

場所：県庁3階特別応接室

「高梁・JOMOふれあい」の森づくり
（株式会社ジャパンエナジー水島製油所 専務執行役員所長 蒲池正道）



企業、NPO、地域住民、行政等が協働し、間伐、草刈り等の森林整備活動や地元食材の手作り昼食による交流会、昆虫採集、キノコウォッチング等を実施し、企業が行う先駆的な取組として森づくりの推進に大きく貢献した。

井原線沿線の活性化に向けて
（井原線まちおこしネット 代表 岡田正樹）



井原線沿線の住民と行政等が協働し、特産品の開発・販売、井原線沿線を歩く観光コースの企画・運営、インターネット等による情報発信を行い、井原線沿線の活性化及び井原線の利用促進に大きく貢献した。

森を活かし、守る森林ボランティア活動
（NPO法人「ふれあいの里・高梁」 理事長 小見山節夫）



NPO、企業、地域住民、行政等が協働し、キャンプ等のイベントや森林ボランティアによる森林作業の実施、企業が行う森林施業の指導・助言を行い、県下初の森林整備NPOとして、森づくりの推進に大きく貢献した。

にいみ子育てカレッジ
（にいみ子育てカレッジ運営協議会 会長 難波正義）



新見地域の大学、家庭、行政等が協働し、地元大学を核に、子育て支援者に対する専門研修、子育て中の親子交流、子育てボランティア等の連携・育成、子育て情報の発信等を行うことにより、地域ぐるみの子育て支援に大きく貢献した。

(2) 夢づくり推進賞（県民局長表彰）

【表彰式】

日時：平成21年6月10日（水）

場所：県民局会議棟1階会議室

まちに灯をともす 古民家再生による地域活性化
（NPO法人倉敷町家トラスト 代表理事 中村 泰典）



NPO、地域住民、行政等が協働し、町家を修復、再生する取組を行うとともに、空家状況等の調査や相談窓口の開設など町家の利活用促進の取組など地域おこし、まちづくりに貢献した。

吉備野古ツーリズム「みちくさ小道」
（NPO法人吉備野工房ちみち 理事長 加藤 せい子）



NPO、地域住民、行政等が協働し、人、まち、食、自然&文化、健康&美の5つのテーマで地域の隠れた資源を掘り起こし、14の体験ツアープログラムを実施するなど地域おこしに貢献した。

子ども達が遊べる里山の復活
（山っこクラブ 代表 小野 光三）



ボランティアグループ、地域住民、行政等が協働し、地域の子ども達が遊べる里山を復活させようと、里山林の整備、巣箱掛け、清掃活動等を行い、古里づくりに貢献した。

農業体験を通じた「ふるさと再生」への取組
（下高末棚田保全組合 組合長 片山 幸一）



JA、地区住民、行政等が協働し、地区内の耕作放棄地を活用し、都市住民を対象とした田植え、稲刈り等の農業体験や炭焼き体験、シイタケ栽培等の里山林整備など地域の活性化に貢献した。

「榮農王国山光園」（新規参入農場）における力強い経営体の育成
（西山（榮農王国山光園）経営・生産対策推進会議 代表 村上 進）



地元農家、JA、行政等が協働し、新規参入者の確保、育成を図るため受入体制の整備や栽培技術の習得を目的とした就農支援、経営指導などを行い、地域の活性化に貢献した。

森を活かし、守る森林ボランティア活動
（阿新地域美しい森づくりの会 会長 前田 忠志）



ボランティア団体、地元住民、行政等が協働し、植樹、間伐などの森林作業や地元住民と都市住民との交流の場の創出、青少年への森林学習の提供など山村の活性化に貢献した。